

2019 年 5 月 17 日

経済レポート

2019(平成 31/令和元)年度 新入社員意識調査アンケート結果 ～「多様性」を大切にする令和の新入社員たち～

調査部 研究員 丸山 健太

当社では、毎年 3 月下旬～4 月上旬に新入社員を対象とするセミナーを開催し、その受講者にアンケートを実施している。今年度は、東京、名古屋、大阪にて、1,200 名を超える新入社員が計 34 講座を受講した。本レポートは、アンケートの集計・分析結果をまとめたものである。

【アンケート調査結果の概要】

○ 多様な価値観の許容を何より求める新入社員たち

- 会社から「私生活に干渉」されることを拒み、「会社の人と飲みに行くのは気がすまない」新入社員が増えてきている。プライベートな時間を確保し、会社以外の居場所を大切にしたいという傾向が近年強まっている。
- 兼業・副業をしたいと考えている新入社員が 4 割を超え、そのうち 7 割以上の人が「趣味を活かした仕事」を希望している。会社という枠にとらわれず、「私」の価値観の下で仕事をしたいと考えている可能性がある。
- 令和の時代に求めることとしては、「多様な価値観が許容される」が最も多かった。

○ 転職にも前向きな姿勢、兼業・副業をその足掛かりに

- 今年の新入社員は、転職にも前向きなようだ。良好な雇用情勢の下、転職先を見つけることが比較的容易であるためか、転職への抵抗感が和らいできた。新卒で入った会社で働き続けることが当たり前ではなく、将来の多様な可能性を求めたいということであろう。
- 転職に前向きな新入社員ほど、兼業・副業にも前向きで、一部の人は兼業・副業から転職のきっかけを掴もうと考えているようだ。

○ 理想の上司は「寛容型」

- 自己認識として、協調性には自信があるが、創造力や積極性に欠けると考える人が多い。また仕事があまくできるかといった不安を抱えており、たとえミスをしても広い心で受け入れ、温かく成長を見守ってくれる「寛容型」の上司を求めている。

＜アンケート調査の概要＞

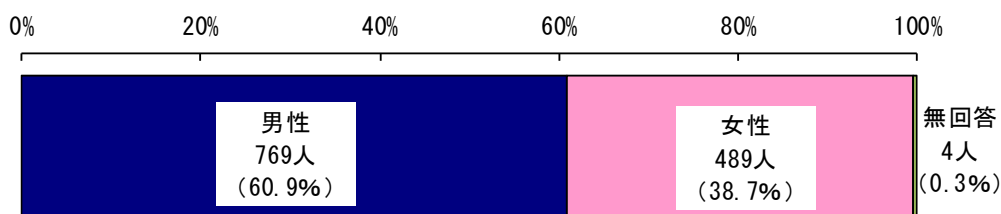
当社の人財開発事業部は、東京、名古屋、大阪において新入社員を対象としたセミナーを開催し、受講者に対してアンケートを実施した。詳細は以下の通りである。

2019 年度新入社員セミナー

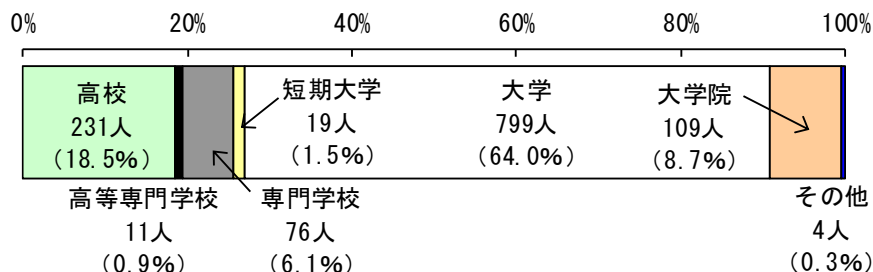
開催日時 講座数	2019年3月28、29日、4月2、3、4、5日（6日間） 合計34講座
-------------	---

	セミナー 参加者数	アンケート 回答者数	アンケート 回答率
東京	147 社 502 名	498 名	99.2 %
名古屋	130 社 373 名	373 名	100.0 %
大阪	96 社 392 名	391 名	99.7 %
合計	373 社 1,267 名	1,262 名	99.6 %

性別（アンケート回答者）



最終学歴（アンケート回答者）



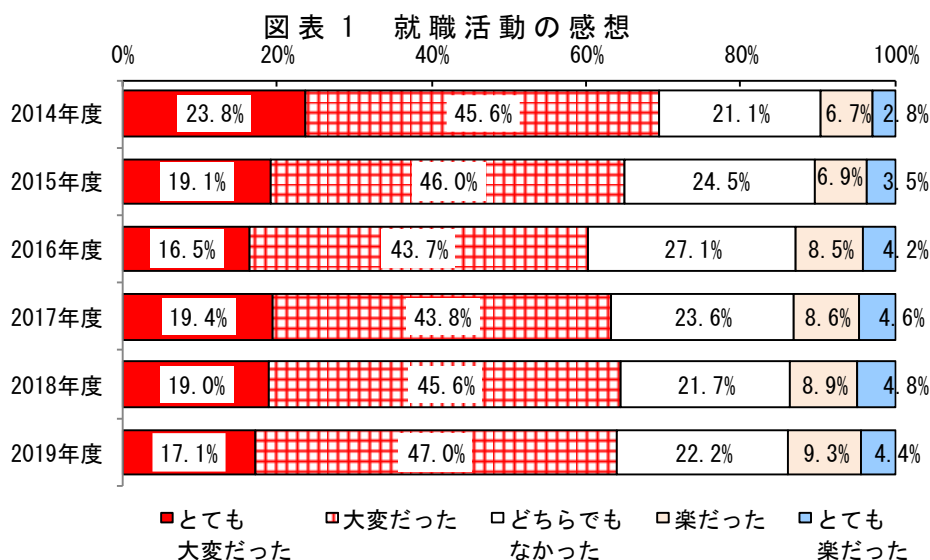
- 本アンケートとレポートは、当社人財開発事業部と調査部の協働で作成している。
【人財開発事業部】：セミナーの企画・実施、アンケートの企画・回収・集計
【調査部】：アンケートの企画、集計結果の分析、レポートの作成
- 特に断りのない限り、本文中および図表中で示す割合(%)は、それぞれの設問の回答者全体に占める値である。なお、複数回答を想定しない設問で複数の回答記入があった場合も、傾向を把握するために全てを集計に含めた。このため、合計が100%を超えるものがある。
- 本アンケートの調査結果は、調査対象者の回答に基づくものであり、項目間で論理的な整合性がとれていないものもある。また、前回調査などとの比較に際する統計的有意性については担保しない。

<2019 年度アンケート結果>

1. 仕事に関すること

(1) 就職活動について

2018 年度の国内景気は、外需を中心に減速の兆しが見えたものの、腰折れするには至らなかった。その中でも、完全失業率がバブル期並みの水準まで低下するなど、人手不足が深刻化する中で雇用情勢は改善を続けた。これを受けて、2 月 1 日時点の新卒内定率は 1997 年の調査開始以来最高の 92.2%となった¹。新入社員に就職活動の感想を聞くと（図表 1）、「とても大変だった」（17.1%）と「大変だった」（47.0%）の割合は、高い水準を維持しているものの、3 年ぶりに減少に転じた。一方で「とても楽だった」（4.4%）と「楽だった」（9.3%）を合わせた割合は前年から横ばいでとどまっており、雇用情勢が改善しても、就職活動を行う学生の負担が低下するわけではないようだ。



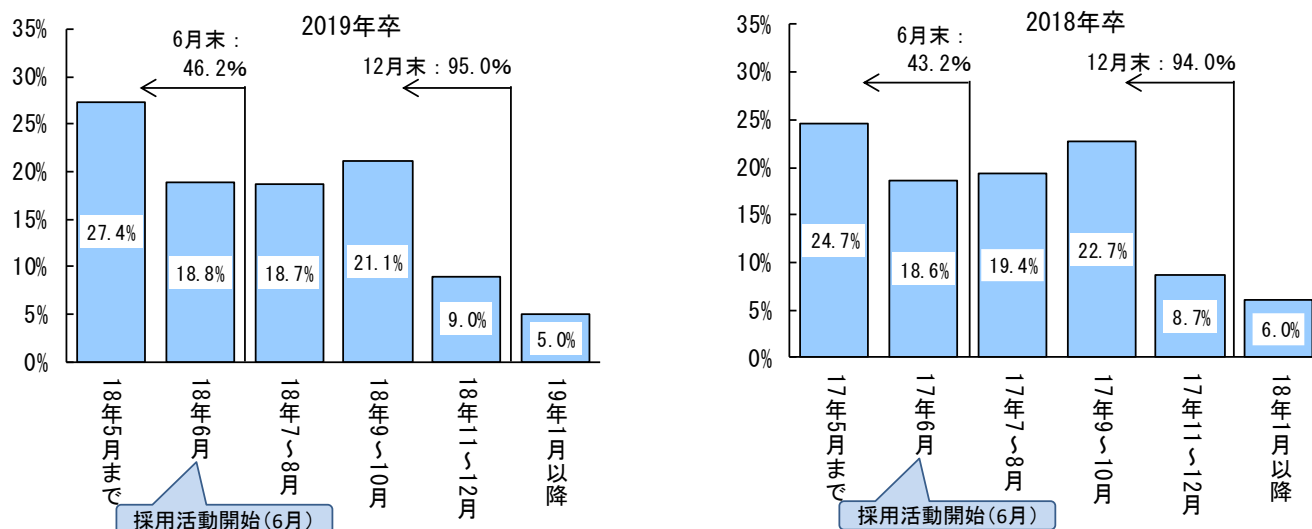
2019 年卒の就職活動のスケジュールは、企業の広報活動開始が 3 月 1 日、選考活動の開始が 6 月 1 日と、18 年卒から据え置かれた。依然として説明会、エントリー、面接、進路決定を短期間でこなす「短期決戦」を強いられる状況は変わらなかったことが学生の負担となったと考えられる。

内定が出た時期を見ると、18 年卒と比べて 5 月末までに内定が出た人が増えている（図表 2）。これは選考活動が解禁される 6 月 1 日より前に実質的な選考を行う企業が増えていることを示唆しており、準備期間が 18 年卒よりもさらに短くなったことや、どの時点から選考段階に入っているかわからないといった不安感も大変さにつながったと考えられる。

20 年卒の就職活動は、指針の上では同じスケジュールが予定されているが、GW10 連休の影響もあり、企業、学生とも活動開始のタイミングが早まった可能性がある。

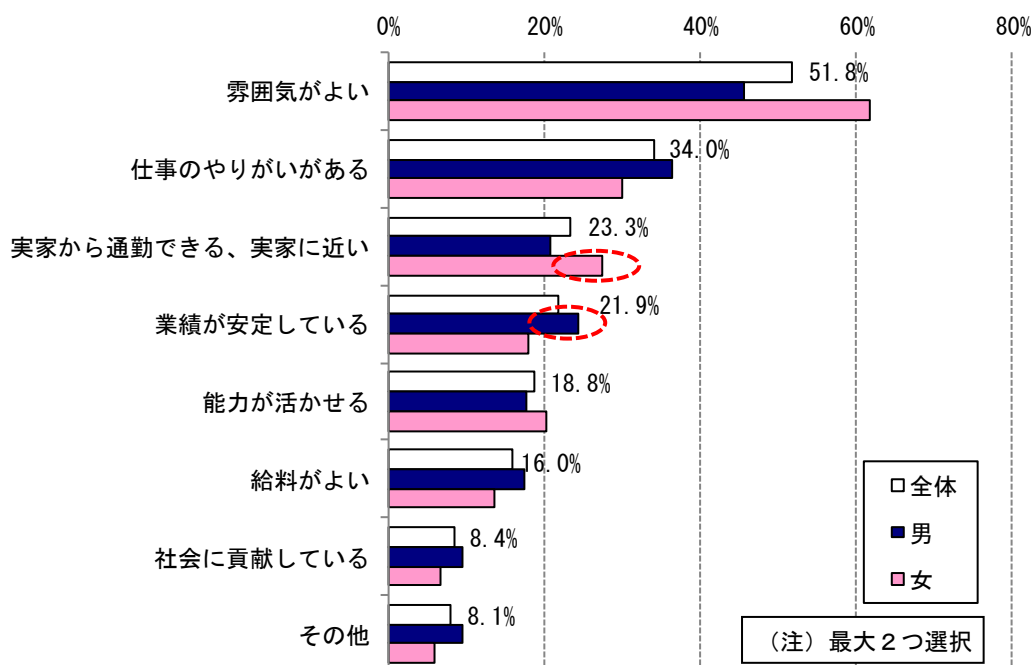
¹ 文部科学省、厚生労働省「平成 30 年度大学等卒業予定の就職内定状況調査（2 月 1 日現在）」による。内定率は、大学、短期大学、高等専門学校就職内定率（就職希望者に対する就職内定者の割合）

図表 2 最初に内定が出た時期



会社を選んだ基準は例年通り、「雰囲気がい」(51.8%)が最も多く、続いて「仕事のやりがいがある」(34.0%)だった(図表 3)。3 位は男女で異なり、男性は「業績が安定している」だったのに対し、女性は「実家から通勤できる、実家に近い」だった。また、「その他」では「休日が多いこと・取得できること」など、休暇に関する回答が目立った。

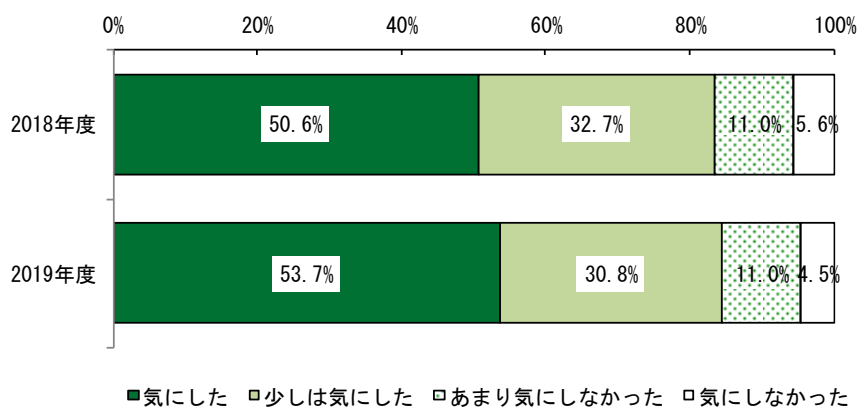
図表 3 会社を選んだ基準



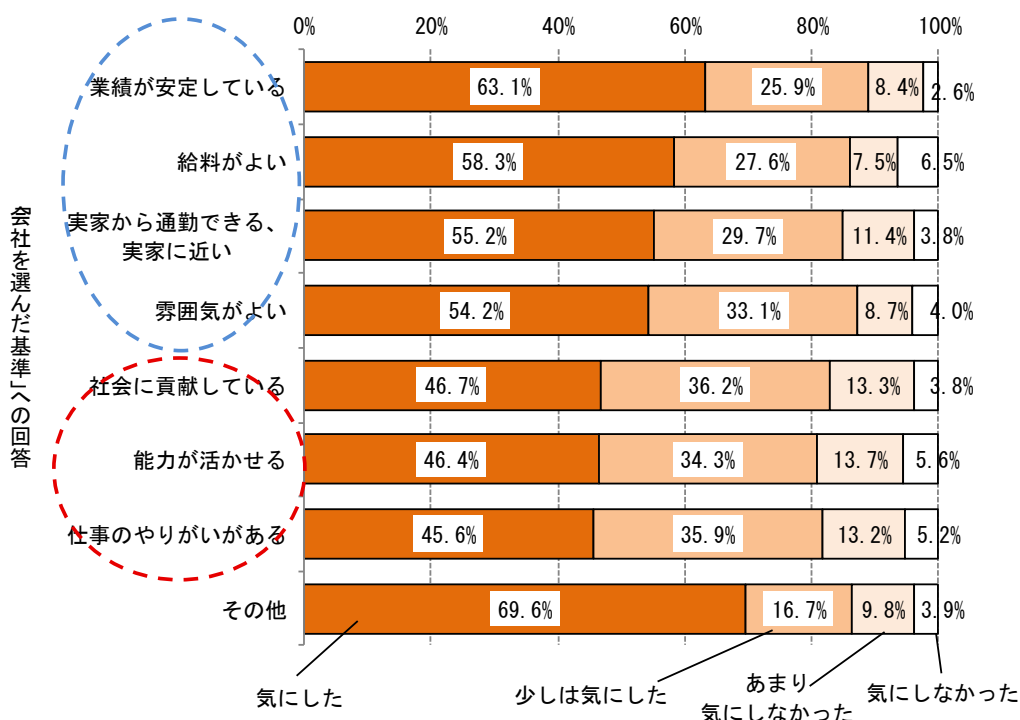
近年、労働時間や労働環境について社会的な関心が高まっている。就活の際に、長時間労働が当たり前であったり、パワハラ・セクハラが散見されたりするような、いわゆる「ブラック企業」ではないかを「気にした」(53.7%)、または「少しは気にした」(30.8%)新入社員の割合は、ここ数年で最も高い84.5%となった(図表4)。

また、会社を選んだ基準への回答ごとに、「ブラック企業」ではないか気にした割合をみると(図表5)、「業績が安定している」ことや「実家に近い」ことなど、待遇や環境を重視する新入社員は、併せてブラック企業でないこともまた重視している。一方で、「仕事のやりがいがある」ことや「能力が活かせる」ことなどを重視する新入社員は、「ブラック企業」かどうかを気にする割合が低い。

図表4 就職活動の際、「ブラック企業」を気にしたか



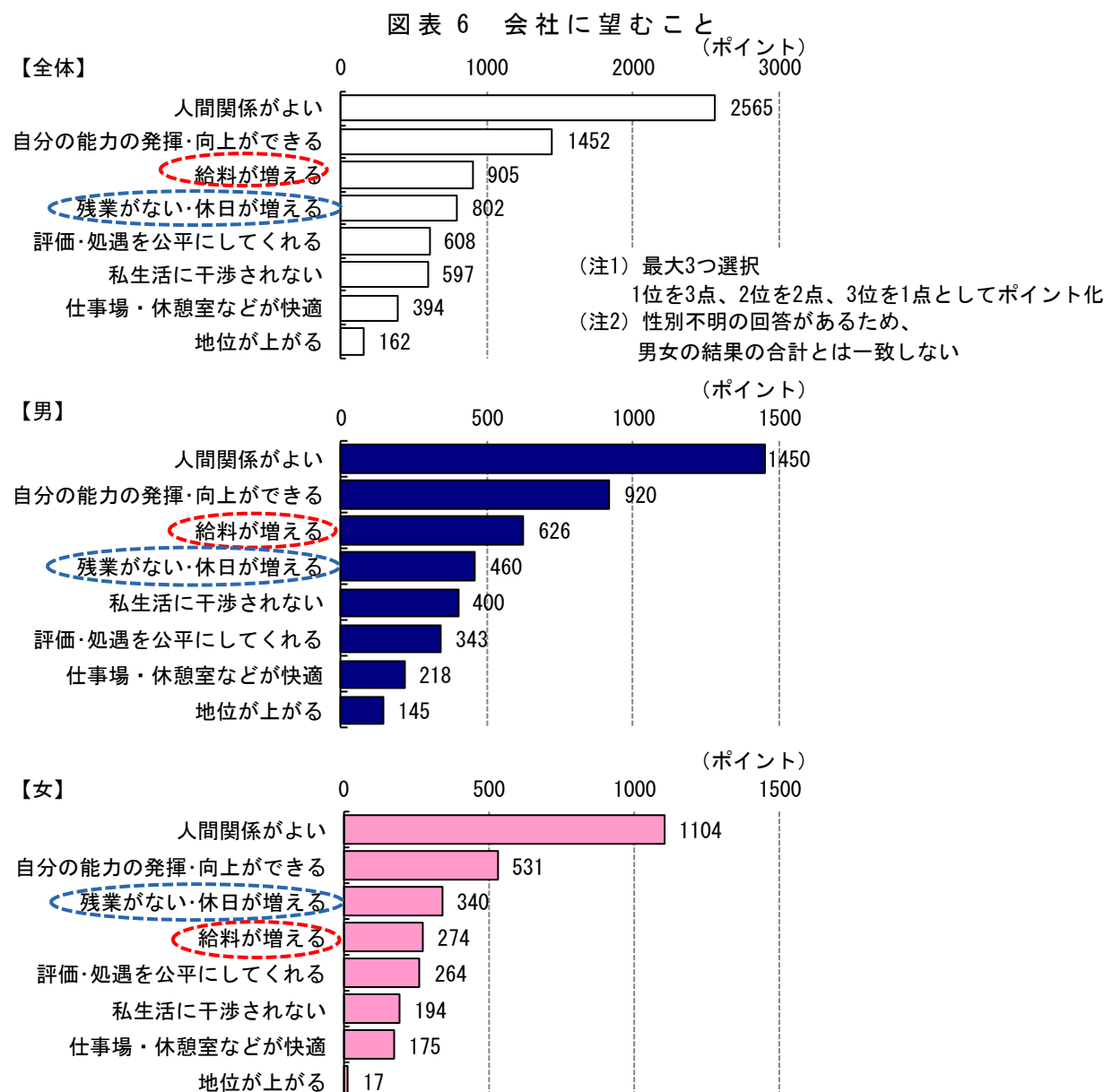
図表5 何を基準に会社を選んだ人が、就職活動の際、「ブラック企業」を気にしたか



(2) 会社に対して

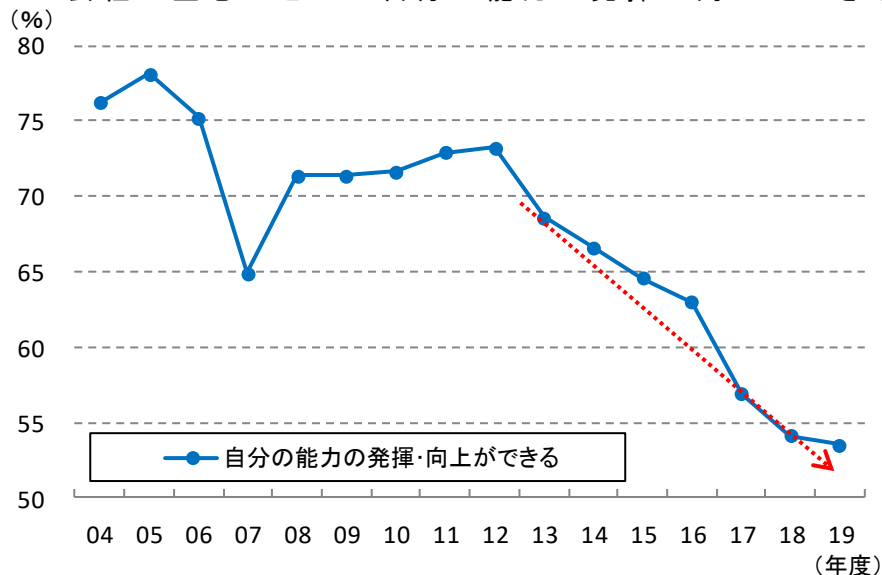
今年度の新入社員は会社に対して何を望んでいるのだろうか。図表6の選択肢の中から、最も望むものから順に3つを選んでもらい、1位を3点、2位を2点、3位を1点としてポイント化し、集計した。結果は、「人間関係がよい」が最も高く、次いで「自分の能力の発揮・向上ができる」となった。この2項目の順位は、本調査を開始した2004年度以降、毎年変わっていない。

3位は男女で異なり、男性では「給料が増える」、女性では「残業がない・休日が増える」と、これらの順位も昨年と同様であった。人手不足が深刻化し、一部企業で新卒初任給を大幅に引き上げるなど、所得環境は改善を続ける中で、男性を中心に新入社員は給料がさらに増加することを期待している。また、働き方改革関連法が施行され、今年4月から残業時間の上限が規制されるなど、働き方の見直しが進んでおり、女性を中心に新入社員も休みはしっかり確保したいと考えていることがうかがえる。



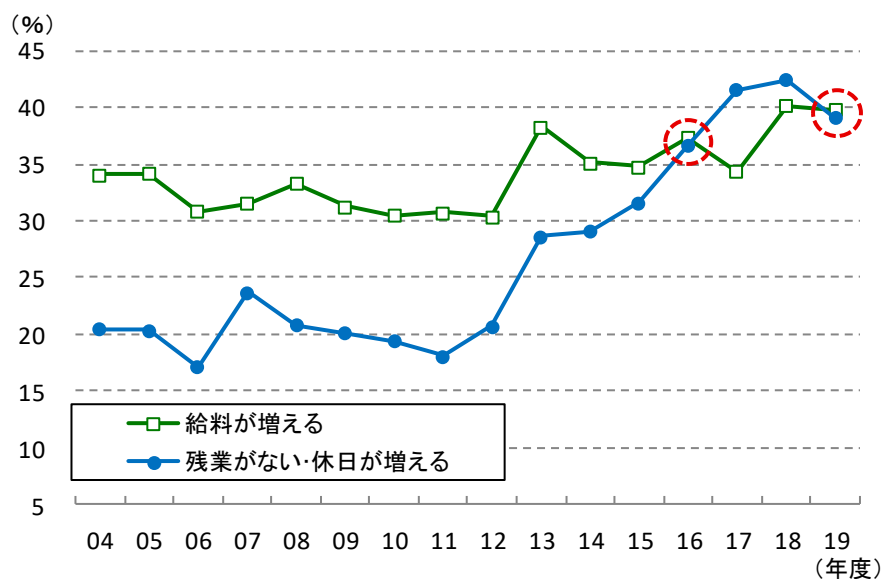
2位の「自分の能力の発揮・向上ができる」を、1位から3位までのいずれかに選択した人の割合²を過去と比較すると、水準こそ高いものの、12年度をピークに低下基調が続いており、今年度も下げ止まらなかった(図表7)。

図表7 会社に望むこと―「自分の能力の発揮・向上ができる」



同様に、「残業がない・休日が増える」と「給料が増える」の2項目について見ると、「給料が増える」が横ばいで推移する一方、「残業がない・休日が増える」は減少に転じ、2016年以来、再び「給料が増える」を下回った。残業代がきちんと支払われる限りにおいて、残業することに抵抗がない新入社員が増えてきている可能性があることが推察できる。

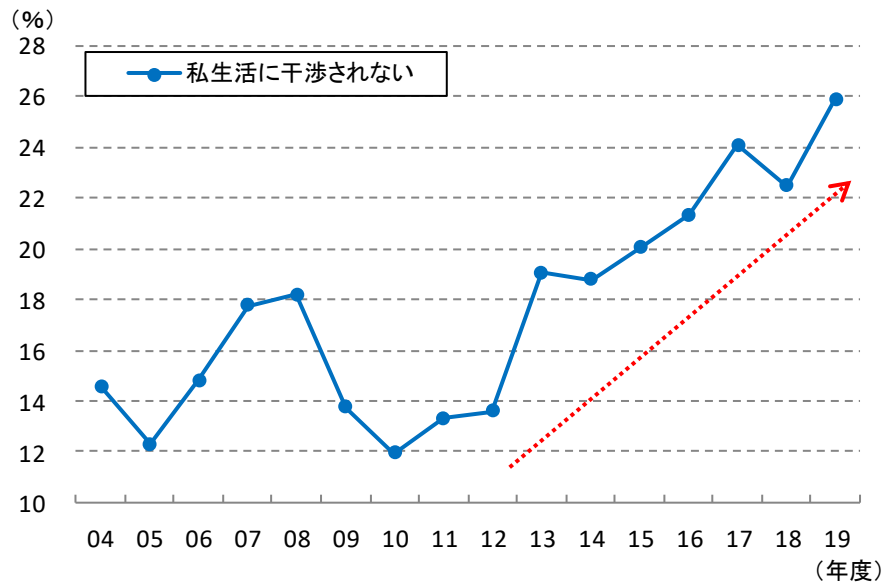
図表8 会社に望むこと―「給料が増える」・「残業がない・休日が増える」



² 回答者数が異なりポイントを経年で比較することができないため、8つの選択肢の中で1～3位のいずれかに選択した人の割合で比較する。なお、12年度までは1～8位を順位付け、13年度以降は1～3位を順位付けという違いはあるが、1～3位までを選択した割合に与える影響は小さいと考えられる。

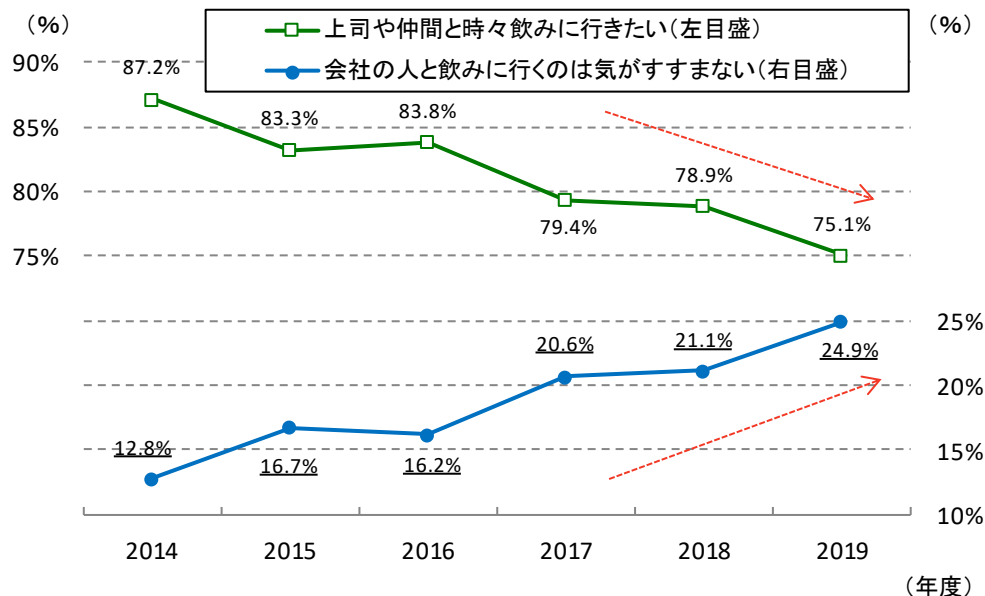
一方で、「私生活に干渉されない」の選択比率は、水準は依然低いものの、増加している（図表 9）。職場に人間関係の良さを求める一方で、その関係を休日などプライベートの時間にまで持ち込むのではなく、オフの時間は全く別の生活を送りたいと考える新入社員は増加傾向にあるようだ。

図表 9 会社に望むこと―「私生活に干渉されない」

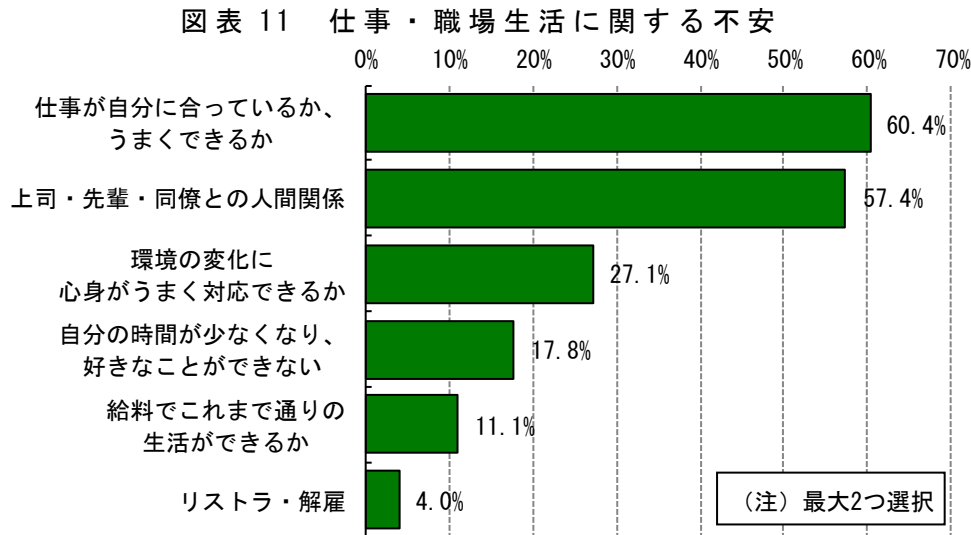


終業後の飲み会についての考えを尋ねると、「上司や仲間と時々飲みに行きたい」の割合が 75.1%と高水準を維持しているものの、低下傾向が続いている（図表 10）。また、近年、「会社の人と飲みに行くのは気がすすまない」の割合が高まっており、プライベートの時間を大切にしたいという傾向が強まっていることが確認できる。

図表 10 終業後の付き合い方

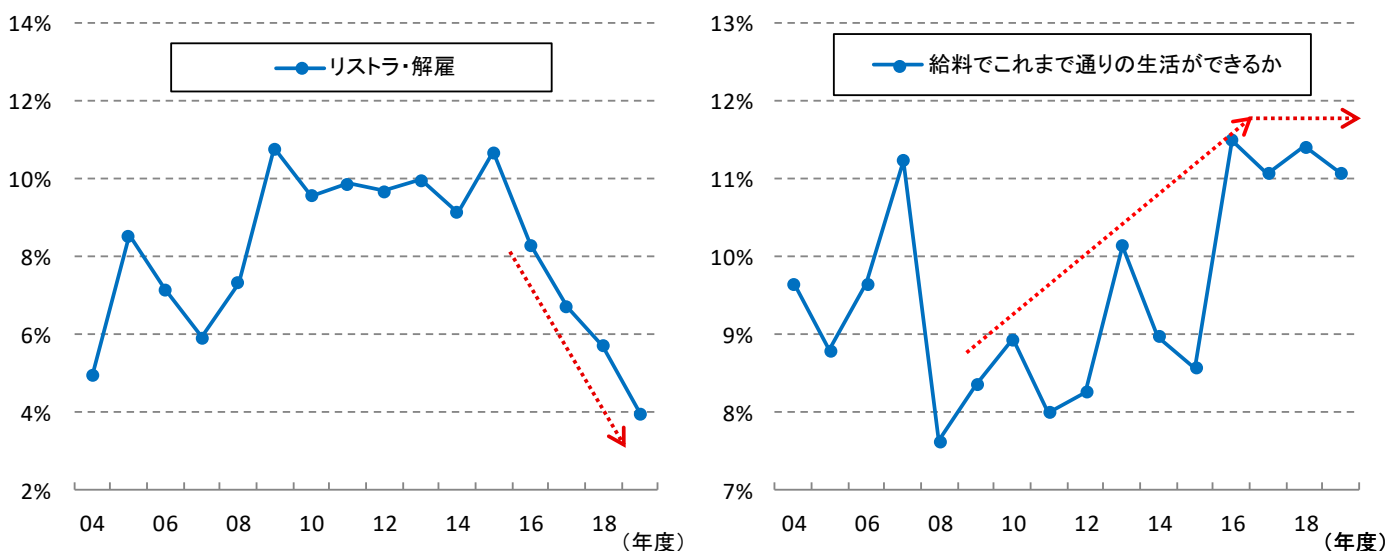


次に、仕事や職場生活に関する不安を尋ねると、「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」(60.4%)が最も多く、次いで「上司・先輩・同僚との人間関係」(57.4%)となった(図表 11)。この2項目は2004年度の調査開始以来、一貫して上位を占めている。



一方、「リストラ・解雇」を心配する人は減少を続けており、「給料でこれまで通りの生活ができるか」の選択割合も上昇が一服し、横ばいで推移している(図表 12)。これらの傾向は、昨今の良好な雇用・所得情勢の下、リストラや解雇される心配も減り、また仮に解雇されたとしても新たな職場を見つけることはかつてほど困難ではなくなっていること、さらに人手不足のために賃金の持ち直しが続くことが見込まれていることを反映していると考えられる。

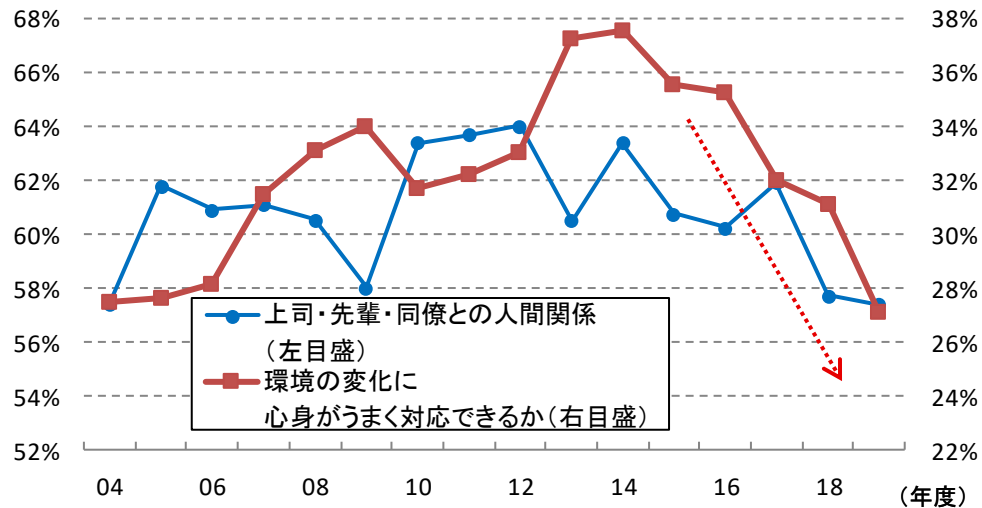
図表 12 仕事・職場生活に関する不安（雇用・賃金、2004～2019年度）



一方で、「上司・先輩・同僚との人間関係」や「環境の変化に心身がうまく対応できるか」といった不安を持った人の割合は、水準自体は高いものの、年々減少している(図表 13)。

価値観が多様化し、多様な生き方が許容されていく中で、職場以外で自分の居場所を持つことができおり、それによって職場での対人関係や環境を相対化して見ることができているのではないだろうか。

図表 13 仕事・職場生活に関する不安（人間関係・環境、2004～2019 年度）



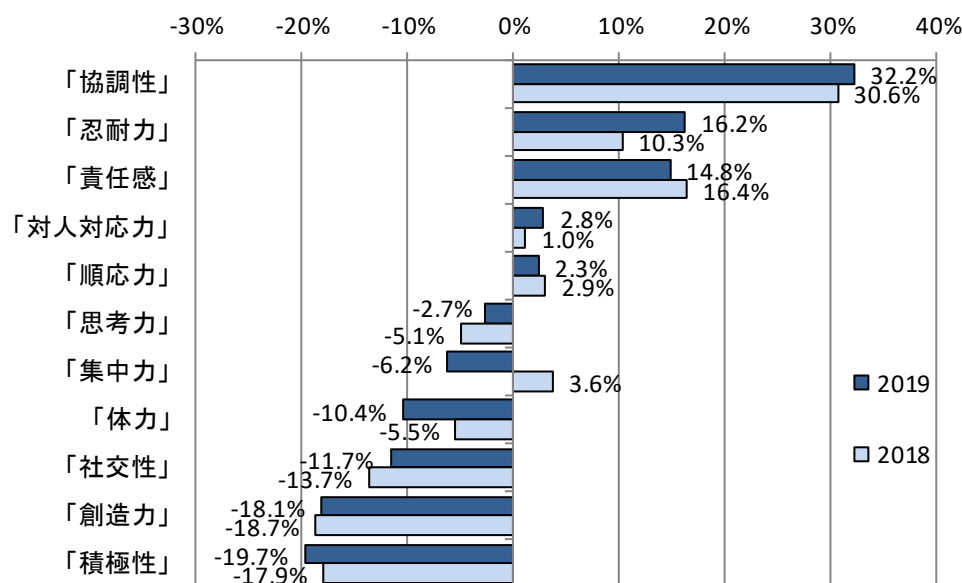
(3) 社会人としての資質

社会人として「自信があるもの」、「欠けているもの」について、11個の選択肢の中からそれぞれ最大2つ選んでもらい、DI(「自信があると答えた人の割合」－「欠けていると答えた人の割合」)を計算した。

結果を見ると、DIが最も高い、すなわち最も自信があるのは「協調性」(32.2%ポイント)で、次いで「忍耐力」(16.2%ポイント)、「責任感」(14.8%ポイント)と、これら3つは例年通りトップ3を占めた。逆に低いのは「積極性」(－19.7%ポイント)、「創造力」(－18.1%ポイント)、「社交性」(－11.7%ポイント)と例年とほぼ同じであった。

その中で、ここ数年DIがプラスを維持していた「集中力」は、2014年度調査以来、5年ぶりにマイナスに転じた(－6.2%ポイント)。前年と比べて、「集中力」を自信があるものとして選んだ人の割合が減り、欠けているものとして選んだ人の割合が増えた。

図表 14 社会人としての自分に自信があるもの・欠けているもの



(注1) 「自信があるもの」と「欠けているもの」それぞれ2つずつ選択

(注2) DI = 「自信があると答えた人の割合」－「欠けていると答えた人の割合」

(4) 理想の上司

理想の上司像を、下表の「寛容型」、「アイデア型」、「カリスマ型」、「平凡型」、「調整型」、「情熱型」、「論理型」、「ムードメーカー型」の8種類の中から1つ選択してもらった。

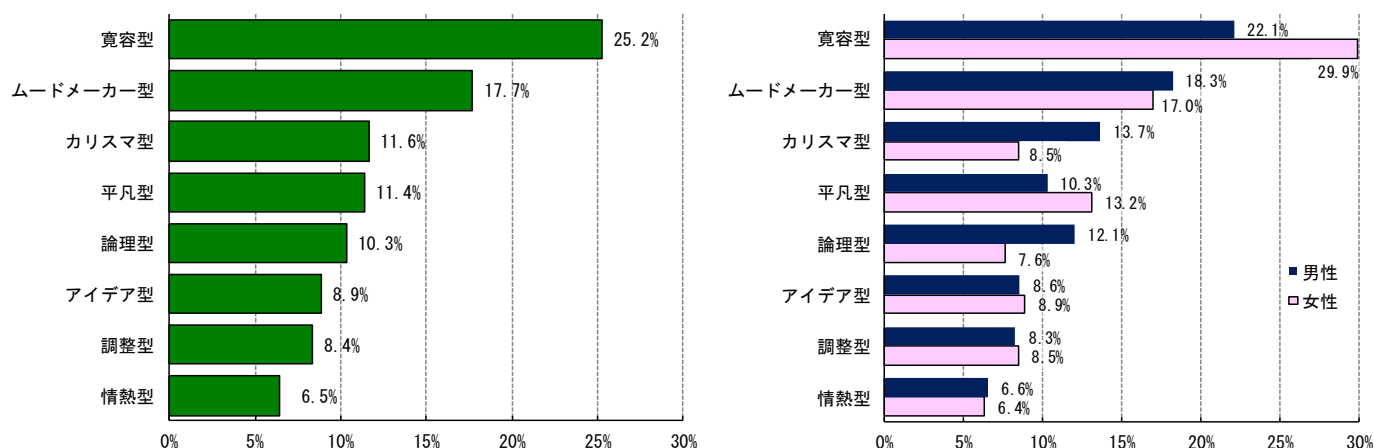
寛容型	情に流されやすい面もあるが、寛容的で忍耐強い人格者
アイデア型	マイペースすぎる面もあるが、発想豊かなアイデアマン
カリスマ型	シビアな面もあるが、天性の才能を持つカリスマ的存在
平凡型	目立った長所はないが、とくに短所もなく常識的
調整型	八方美人な面もあるが、順応性が高く調整や交渉が得意
情熱型	やりすぎる面もあるが、バイタリティに富み、何事にも熱心
論理型	柔軟性に乏しい面もあるが、論理的で責任感が強い
ムードメーカー型	軽薄な面もあるが、ユーモラスな盛り上げ役

結果を見ると、「寛容型」(25.2%)の上司が、特に女性を中心に最も多くの支持を集めた。創造力や積極性を欠くと認識し、また仕事がかたくなにできるかといった不安を抱える新入社員は、たとえミスをしていても広い心で受け入れ、温かく成長を見守ってくれる上司を求めているとみられる。これは指導方法の希望にも表れており、新入社員はスパルタを嫌い、やさしく丁寧に指導してくれる上司や先輩を望む傾向が強い(図表16)

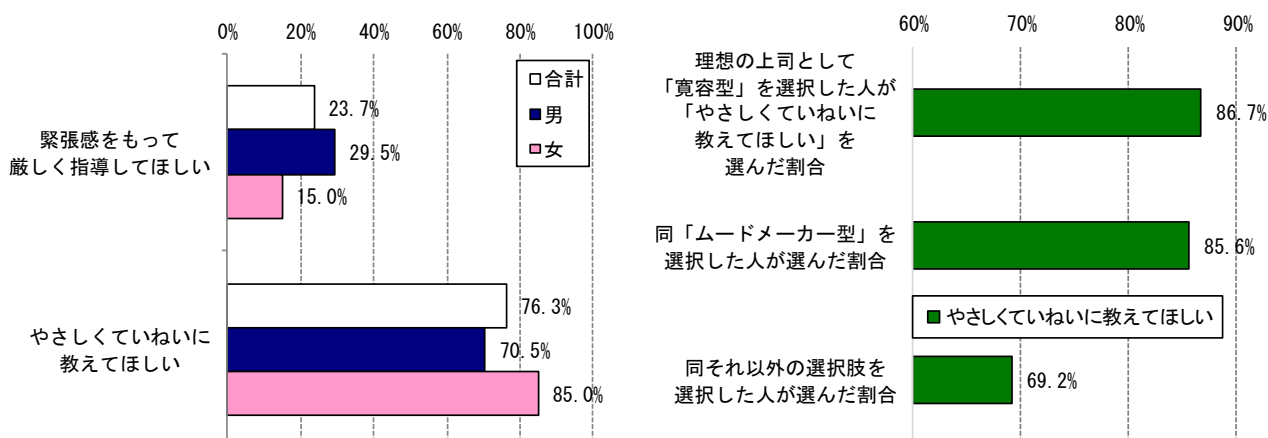
次いで支持を集めたのは、「ムードメーカー型」(17.7%)の上司であった。図表16の右のグラフを見ると、「寛容型」は当然のことながら、「ムードメーカー型」の上司を求める新入社員においても、やさしく丁寧に指導されたいと感じている人の割合が高い。時折ユーモアを交えながら、緊張しすぎない雰囲気の下で指導を受けたいと考えているようだ。

なお、回答が最も少なかったのは「情熱型」(6.5%)だった。

図表15 理想の上司



図表 16 どのように指導してほしいか



さらに、理想の上司を動物に例え、その理由を自由回答で記述してもらった(図表 17)。有効回答数 927 のうち、最も多くの新入社員が挙げたのが「イヌ」であった。親しみやすい、穏やか、寛容である、優しいなどのコメントが多く、「寛容型」のイメージがそのまま重なる。また、誠実である、忠誠心があるといった理由で「イヌ」を挙げた人も多かった。

また、2 位の「ゾウ」も「イヌ」と同様に「寛容型」の上司を好む層からの支持を集めた。穏やかで寛容、安心感があり、どっしりと構えているといった「ゾウ」のイメージが頼りになる上司像に合致したと考えられる。

3 位には「ライオン」が選ばれた。コメントでは、統率力があり、縄張りをしっかり守るといったものが多く理由として挙げられており、「カリスマ型」を理想の上司とした層での得票が多かった。

図表 17 理想の上司を動物に例えると

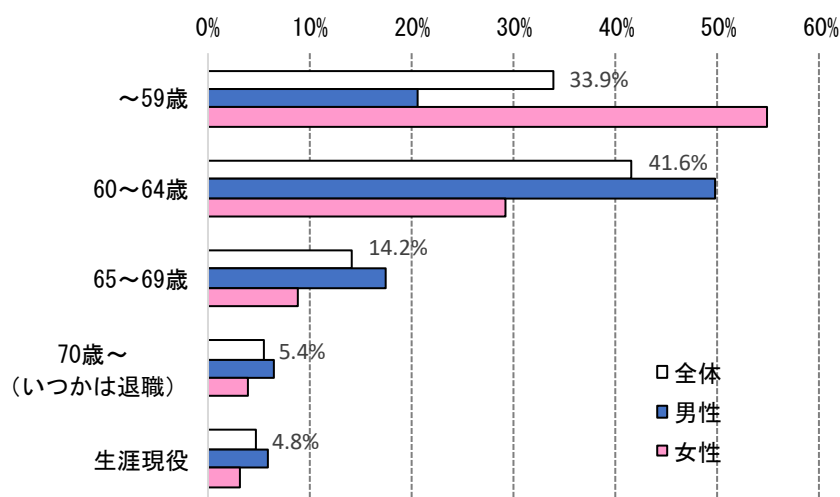
順位	動物名	票数	得票率	イメージ
1	イヌ	167	18.0%	親しみやすく相談しやすい。情が深く、忍耐強い。
2	ゾウ	99	10.7%	どっしりとしていて安心感がある。力強い。おおらか。
3	ライオン	81	8.7%	強いリーダーシップ。頼もしさ。威厳がある。
4	ネコ	48	5.2%	周りに流されない。独創的。
5	ウマ	34	3.7%	温厚な性格。存在感がある。力強く、頼りがいがある。
6	キリン	32	3.5%	視野が広い。優しさと強さを併せ持っている。
7	ゴリラ	31	3.3%	温厚な性格。存在感がある。力強く、頼りがいがある。
8	サル	28	3.0%	器用で行動力がある。頭脳明晰。盛り上げ役。
9	カメ	26	2.8%	温厚な性格。スピードは遅いが、正確で丁寧。
10	カバ	23	2.5%	普段は優しいが、実はとても力がある

(5) 就労意識

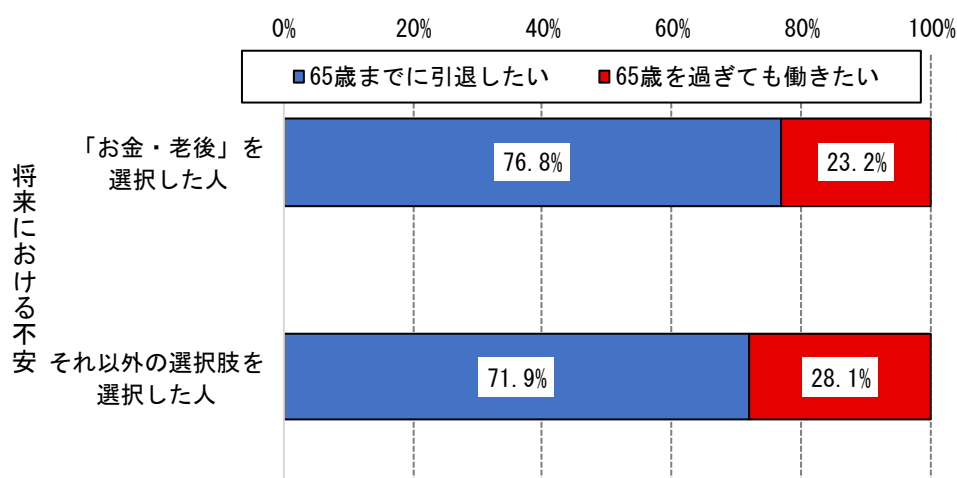
これから始まる職業生活について、まず、何歳まで働きたいか尋ねると、「60～64歳」(41.6%)が最も多く、次いで「～59歳」(33.9%)となった(図表18)。「人生100年時代」と言われ定年延長の議論が盛り上がる中にあっても、多くの新入社員は64歳までに退職することを想定しているようだ。

なお、将来に関する不安(図表44参照)として、「お金や老後のことが心配であると回答した人」は、心配だから65歳以降も働きたいと考える割合が高いと思われたが、そうではなく、むしろ「お金や老後のことが心配であると回答しなかった人」の方が、65歳以降も働きたいと考える割合が高い。働き続ける目的は、必ずしもお金ではなく、自己実現や社会とのつながりであると考えているのであろうか。

図表18 何歳まで働きたいか

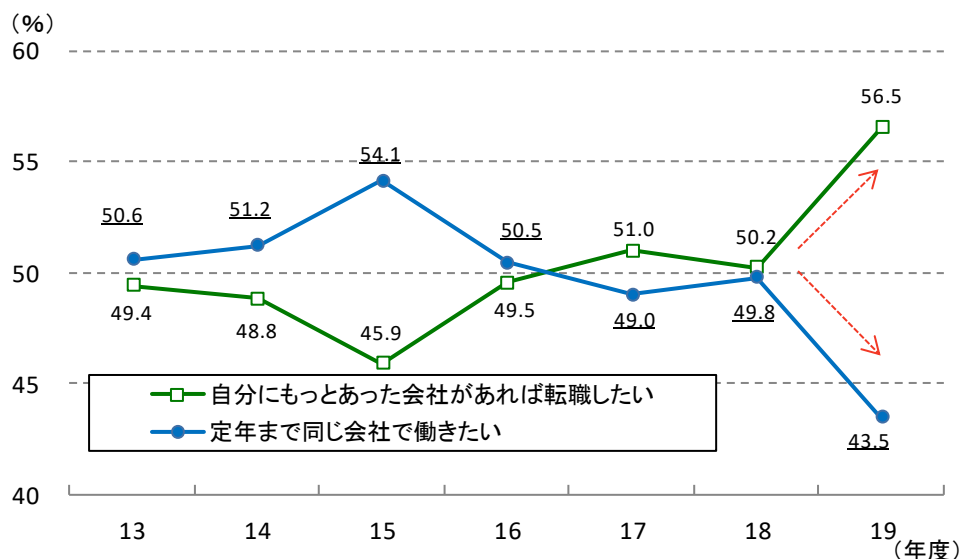


図表19 将来への不安と就労



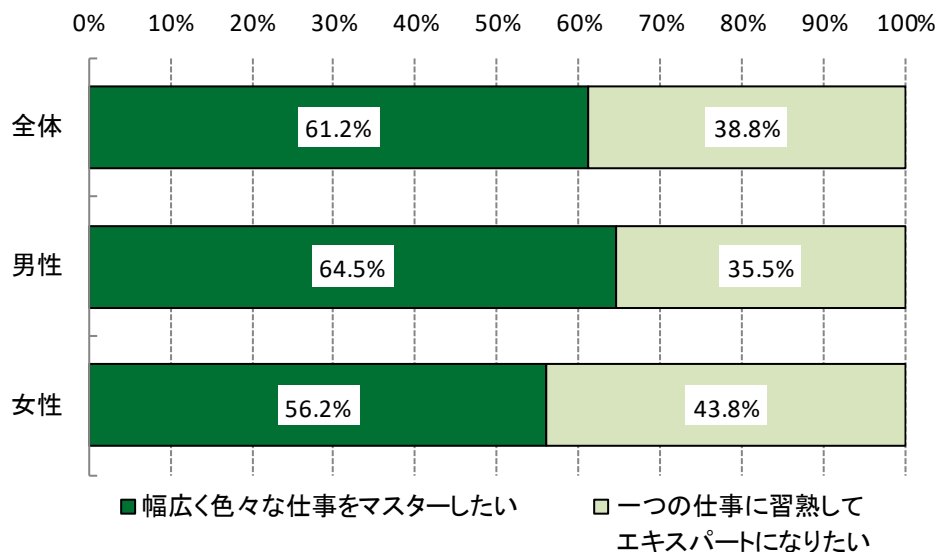
就労意識について尋ねると、「自分にもっとあった会社があれば転職したい」(56.5%)と答えた人の方が「定年まで同じ会社で働きたい」(43.5%)と答えた人よりも多かった(図表20)。ここ数年もみ合いを続けていたが、今年は転職に前向きな新入社員の割合が大きく上昇した。人手不足が深刻化し、雇用情勢が良好を維持する中で、転職先が見つからないなどの懸念が少ないことから、新入社員においても転職への抵抗感が小さくなってきたとみられる。

図表 20 就労意識



キャリアについての志向を尋ねると、全体では「幅広く色々な仕事をマスターしたい」(61.2%)が「1つの仕事に習熟してエキスパートになりたい」(38.8%)を上回った(図表21)。男女で比べると、女性の方がエキスパート志向が強い。

図表 21 ジェネラリストかエキスパートか

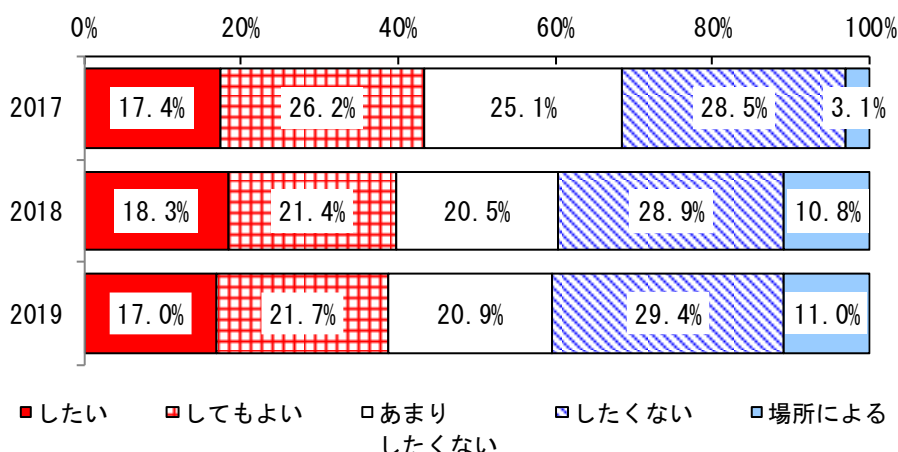


海外勤務については、「したくない」と回答した人が 29.4%と最も多く、「したい」は 17.0%にとどまった(図表 22)。また、「したい」もしくは「してもよい」を選んだ人の割合は 38.7%と、ここ数年海外勤務を希望する新入社員が減少を続けている。これは中国での邦人拘束やニュージーランドでの銃乱射事件など、海外情勢の不安定さが意識されてきていること、海外勤務が出世に結び付くとの意識が希薄になっていること、さらには日本においてもグローバルな仕事に携わることが難しくなってきたことなどが、影響していると考えられる。

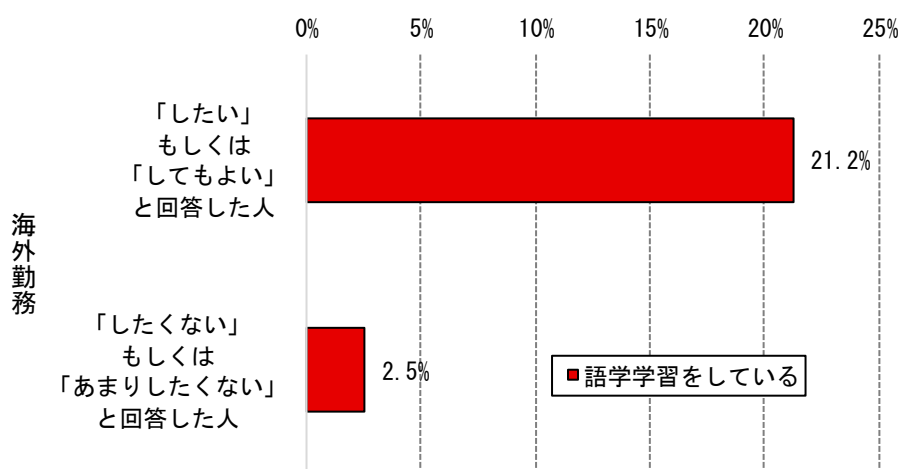
なお、「場所による」と回答した人も 11.0%いるなど、治安のよさなどの条件が整っている場所であれば、海外勤務してもよいと考えている人が一定数存在するようだ。

また、海外勤務を「したい」もしくは「してもよい」と答えた人は、自己研鑽として語学学習をしていると答えた割合が高く、それなりの準備をしていることがわかる(図表 23)。

図表 22 海外勤務をしてみたいか

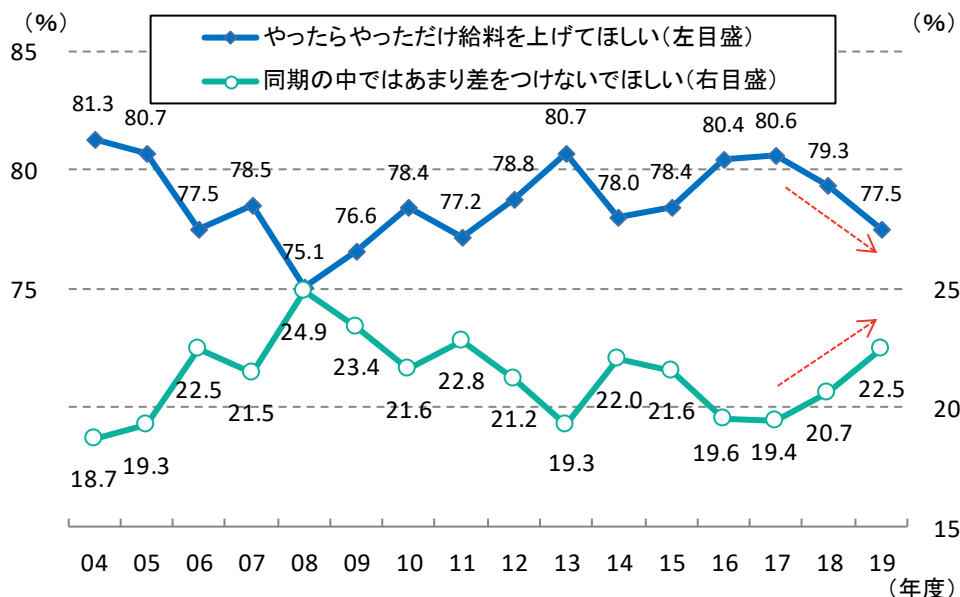


図表 23 海外勤務と語学学習



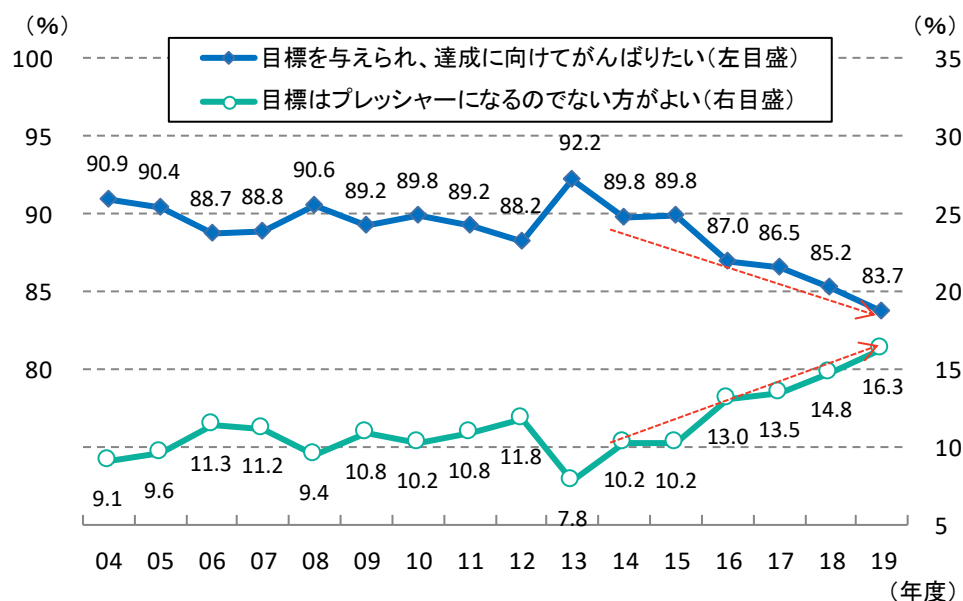
昇給に関しては、多くの新入社員が、「やったらやっただけ給料を上げてほしい」（77.5%）と答えた（図表 24）。ただし、足もとでは減少傾向にあり、「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」（22.5%）と回答する人の割合が上昇しており、成果主義型賃金体系を望まない人が増えている可能性がある。

図表 24 昇給に関する事柄



目標設定に関して、「目標を与えられ、達成に向けてがんばりたい」（83.7%）と答えた割合が高水準を維持している。ただし、「目標はプレッシャーになるのでない方がよい」（16.3%）と答えた人の割合が上昇しており、図表 24 の「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」の割合の上昇とあわせて考えると、競争を避けたいという意識を持った人が増えてきていることが推察される。

図表 25 目標設定は必要か？

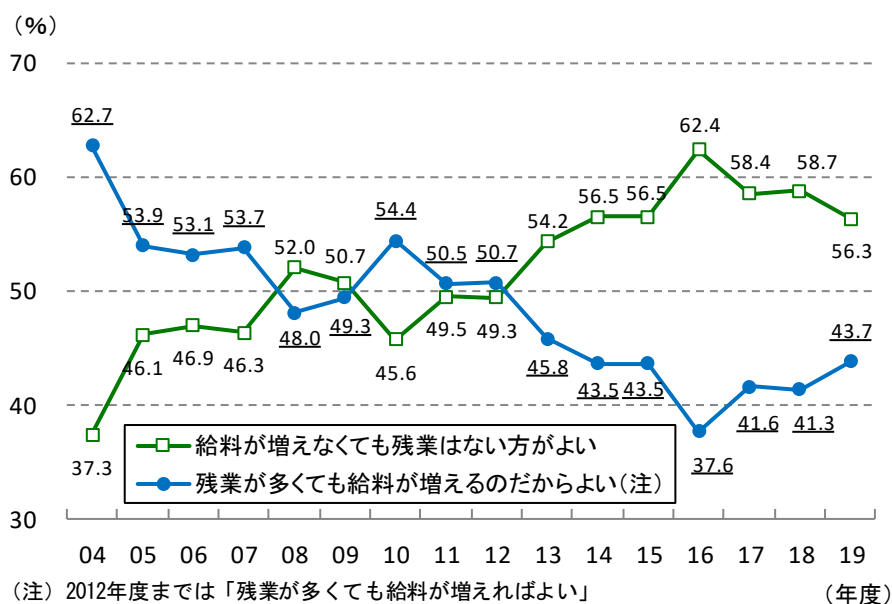


(6) 残業に対する考え方

近年、仕事と私生活の両立を重視するワーク・ライフ・バランスの考え方が浸透しているが、残業に焦点を当てて、考えを聞いてみると、「残業が多くても給料が増えるのだからよい」を選んだ人の割合は43.7%だったのに対し、「給料が増えなくても残業はないほうがよい」は56.3%であった(図表26)。

残業に対して否定的な見方を持つ人の割合は昨年から低下したものの、依然水準は高く、プライベートな時間も大切にしたいという考えを持つ新入社員は多い。

図表26 残業に対する考え方



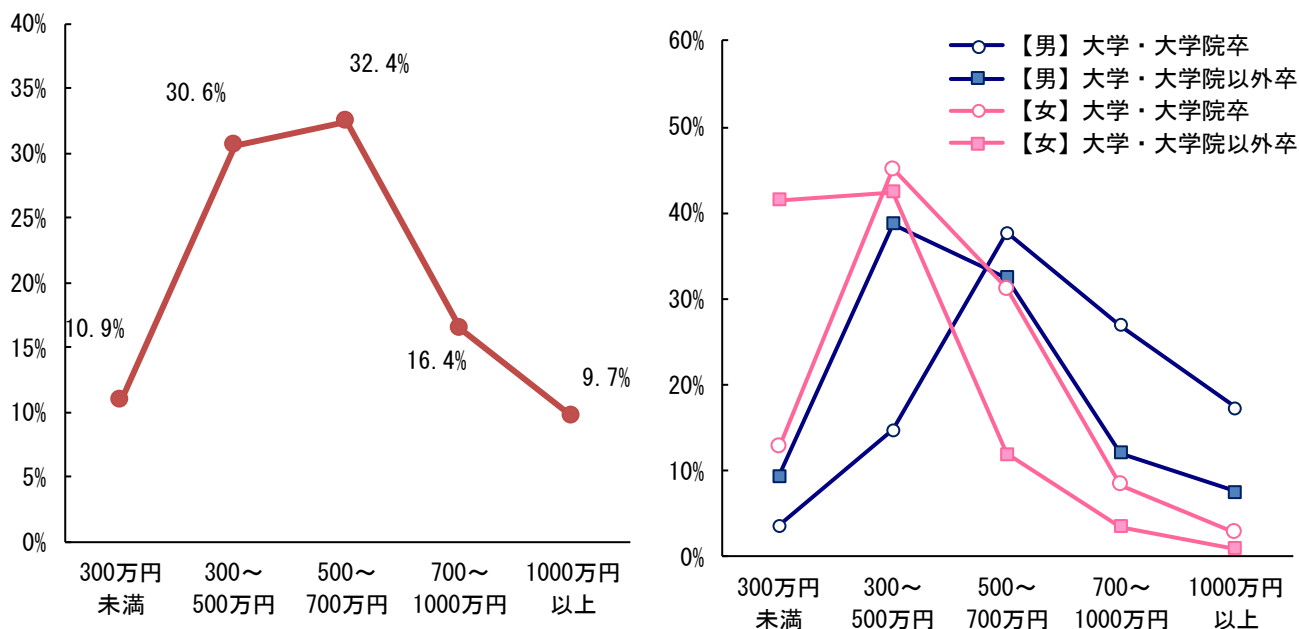
(7) 将来の年収予想

自分の年収が最高でどれくらいになると思うかを聞いたところ、全体では、「500～700万円」(32.4%)が最も多く、次いで「300～500万円」(30.6%)、「700～1000万円」(16.4%)となっている。「1000万円以上」も9.7%に上った。平均値は³、586万円となる。

学歴別では、男性では、大学・大学院卒のボリューム層が「500～700万円」(37.7%)と「700～1000万円」(26.8%)であるのに対し、大学・大学院以外卒では一つ手前の「300～500万円」(38.7%)と「500～700万円」(32.4%)である。

また女性では、学歴による違いは「300万円未満」と「500～700万円」の分布に表れており、大学・大学院卒では「500～700万円」が31.2%を占めているが、大学・大学院以外卒では「300万円未満」(41.5%)の割合がかなり高く、全体的に分布が左に寄っている。

図表 27 予想最高年収（左図：全体 右図：性別、学歴別）



³ 「300万円未満」は300万円、「1000万円以上」は1000万円、その他の階層は中央値で計算
 なお、昨年度までは、本設問の前に「30歳時点の予想年収」を尋ねる設問があった。今年度は「30歳時点の予想年収」を尋ねておらず、このことが結果に影響を与えた可能性があるため、経年で比較することは避けた。

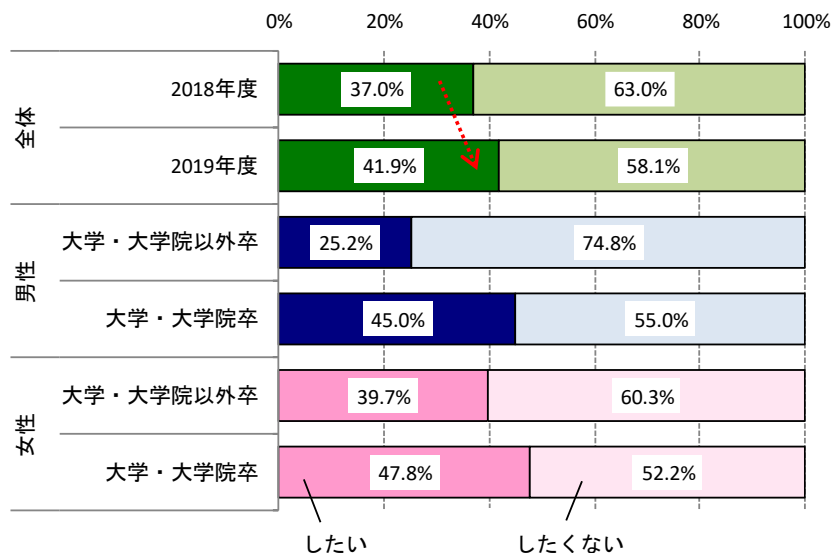
(8) 業務外の活動について

最近ではキャリアや働き方の選択肢が広がり、兼業・副業を認めている企業も少なくない。兼業・副業を「したい」と回答した人の割合は2018年度の37.0%から一段と上昇し、41.9%であった(図表28)。性別では女性が、また、学歴で見ると大学・大学院卒の方が兼業に前向きである。

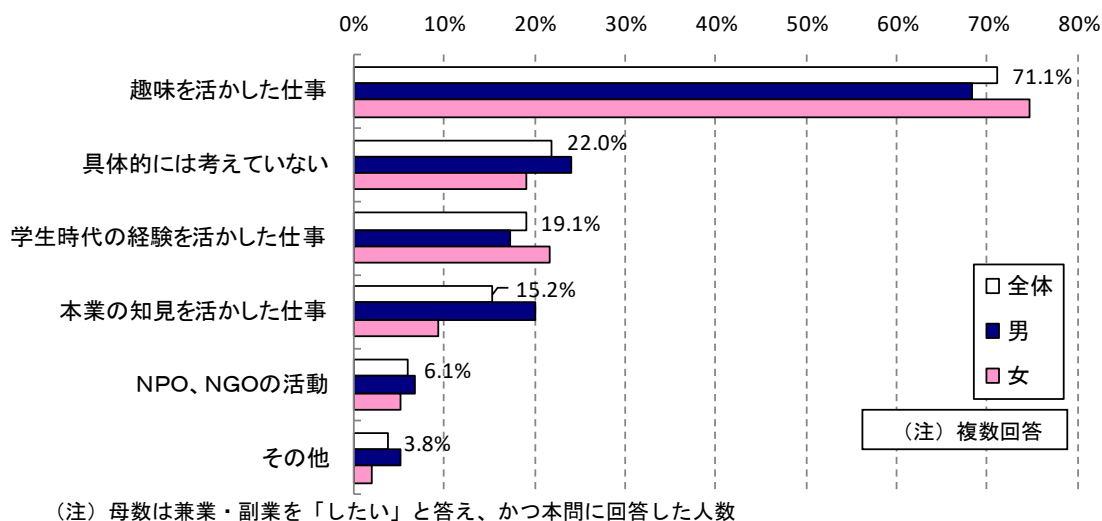
兼業・副業を「したい」と回答した人に、具体的にどのような仕事をしたいと考えているかを尋ねたところ、昨年に引き続き、「趣味を活かした仕事」(男性:68.3%、女性:74.6%)が突出して多かった(図表29)。背景にあるのは、スマートフォンの普及によるSNSの利用者の増加、CtoC市場やシェアリングエコノミーの拡大や、フリーランスで働くことの広がりだ。

プライベートの時間の確保と所得を増やすことの両立を探る中で、自分の好きなことを深め、勤め先に依存しない収入源を持ちたいと考えているようだ。

図表28 兼業・副業をしたいか

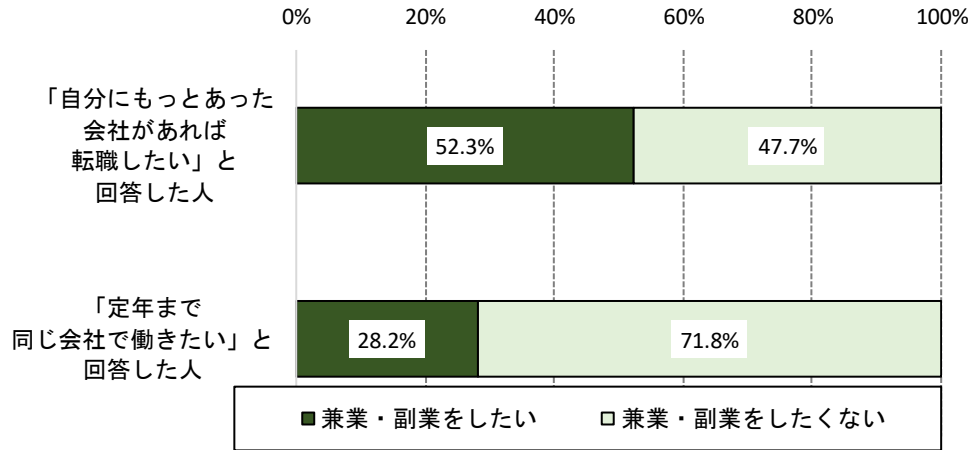


図表29 兼業・副業でしたい仕事



また、転職に前向きな人ほど、兼業・副業をしたいと考えている傾向が強く、兼業・副業を転職のための足掛かりとして捉えている人が多い可能性があると考えられる。

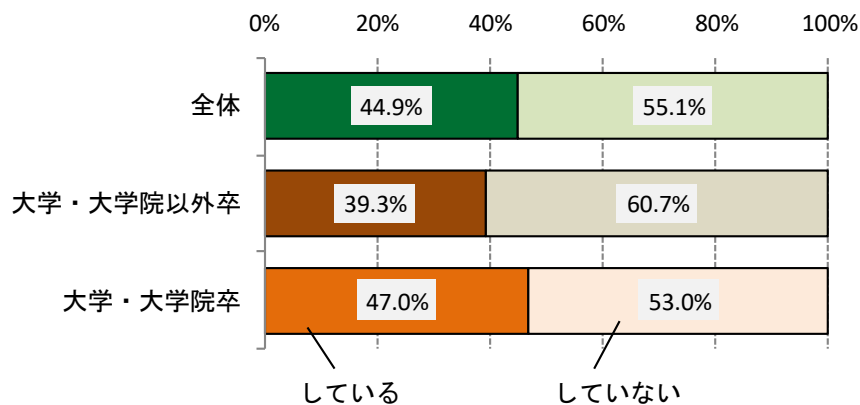
図表 30 転職への態度と、兼業・副業への意欲



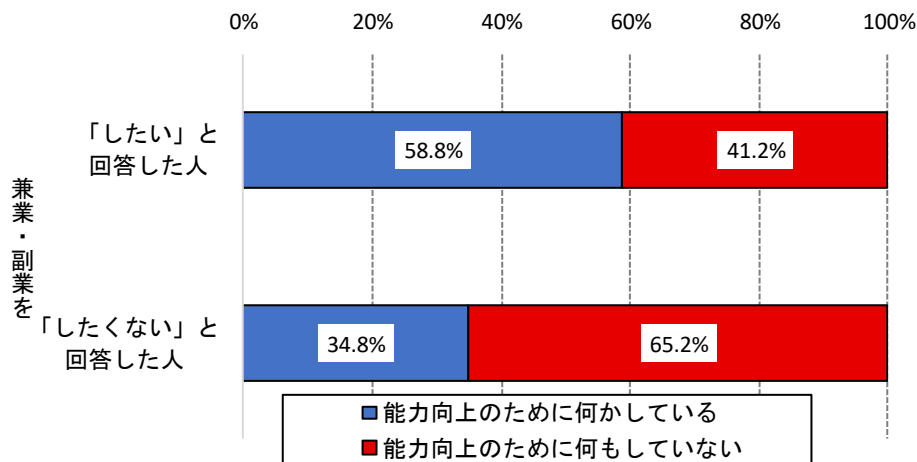
その一方で、自分の能力向上のために何かしているか尋ねたところ、過半数が「していない」というやや心配な結果となった(図表 31)。

ただし、図表 32 を見ると、兼業・副業をしたいと考えている人ほど、能力向上のために何かしていると答える割合が高く、兼業・副業のために、何かしらの準備をしている人も一定数いるであろうことが推察される。

図表 31 自分の能力向上のために何かしているか



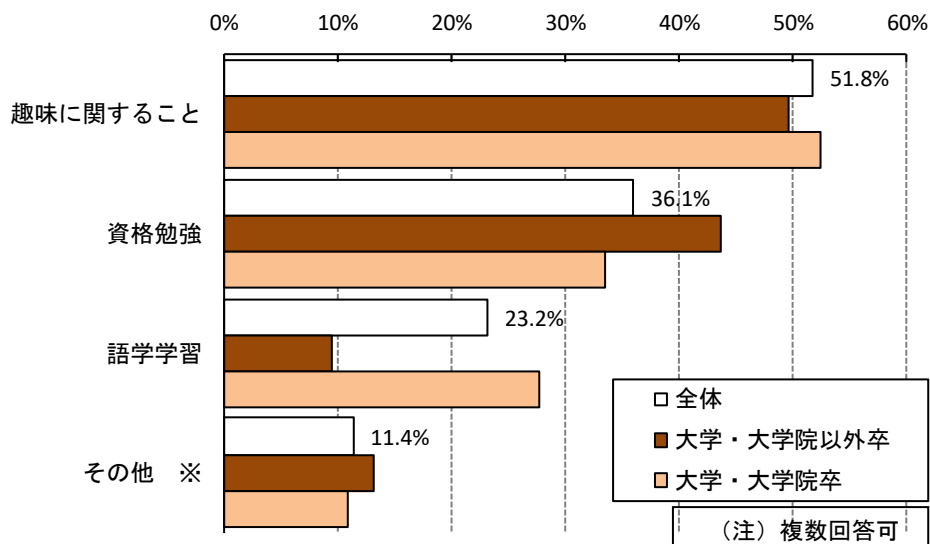
図表 32 兼業・副業への意欲と、能力向上



能力向上のために何かしているという人に対して、具体的に何を行っているかを聞くと、「趣味に関すること」(51.8%)が圧倒的に多かった(図表 33)。また、学歴問わず「資格勉強」(36.1%)が 2 番目に多かったが、特に大学・大学院以外卒で多かった(43.8%)。また、大学・大学院卒に限れば、「語学学習」も 27.7%と比較的多かった。

1 割近くを占めた「その他」では、読書(新聞を含む)やプログラミングなどのIT関連のスキルアップが挙げられた。

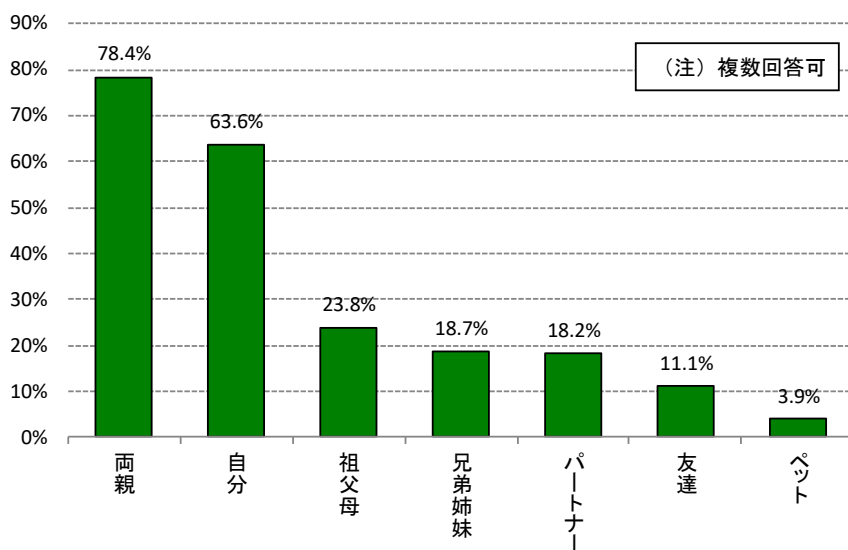
図表 33 自分の能力向上のためにしていること



(9) 初めてのボーナス

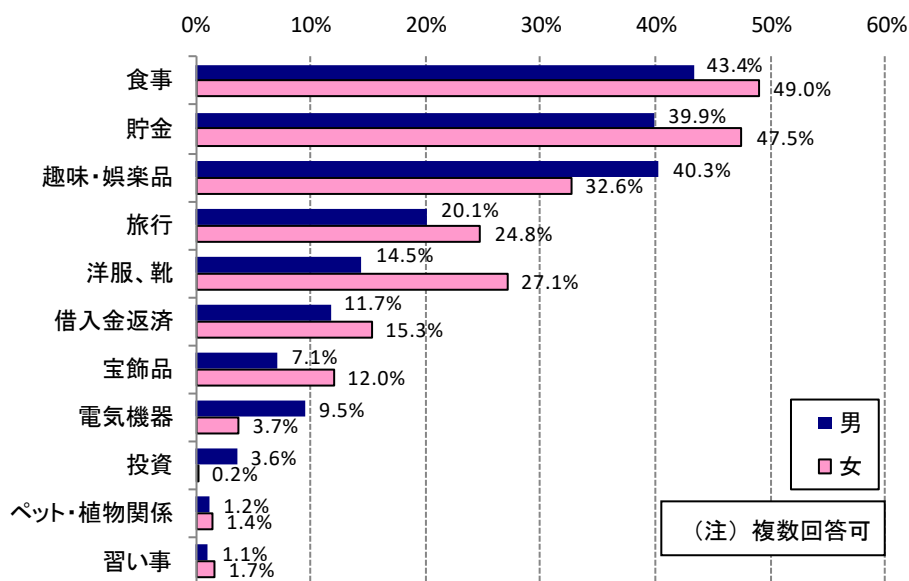
初めてのボーナスを使う相手を聞いたところ、最も多かったのが「両親」(78.4%)で、「自分」(63.6%)を上回った(図表 34)。1年目の夏のボーナスで満額支給される企業は決して多くないとみられ、少額であれば自分のために使うよりも、これまでお世話になった人や親族のために使おうと考えているのかもしれない。

図表 34 初めてのボーナスは誰と、もしくは誰に使うか



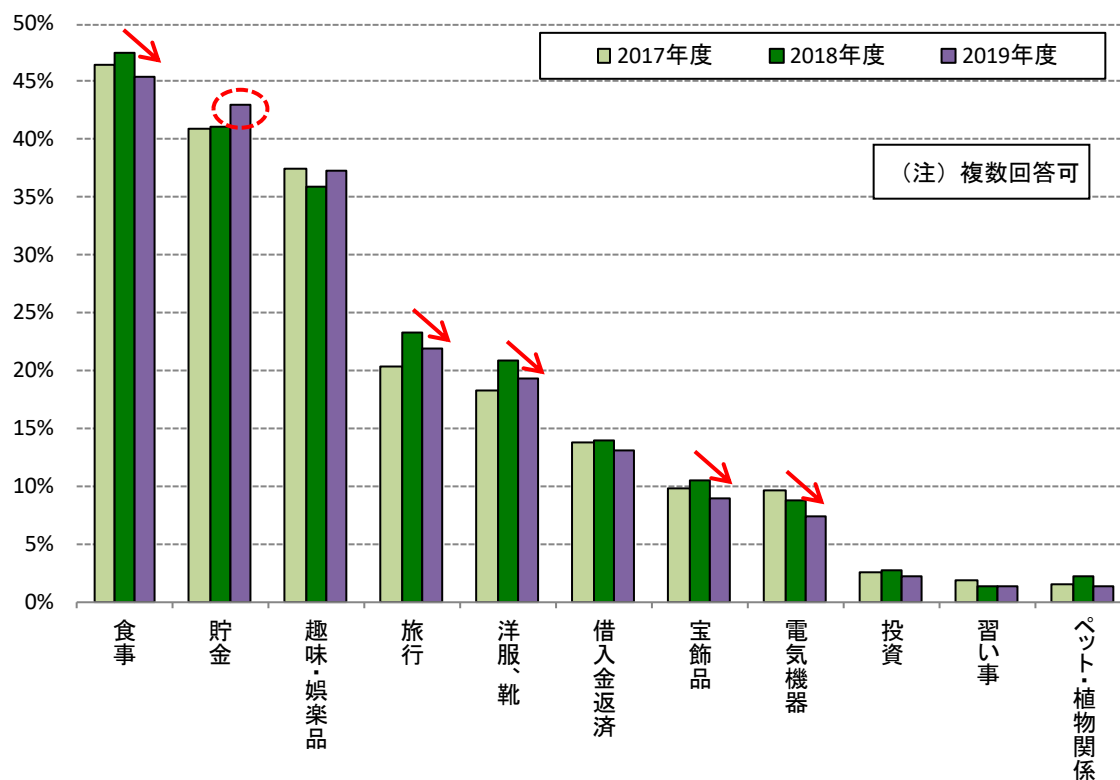
次に、何に使うかを聞いたところ、男女ともに最も多かったのは「食事」(男性:43.4%、女性:49.0%)で、2位は「貯金」(男性:39.9%、女性:47.5%)だった(図表 35)。本設問では複数回答可としており、一部を使った後で、残りを貯金する人が多いと考えられる。

図表 35 初めてのボーナスは何に使うか(男女別)



2 番目に多かった「貯金」(全体:42.9%)だが、2018 年度の 41.4%から回答割合は上昇した(図表 36)。一方で、「趣味・娯楽品」こそ上昇したものの、「食事」や「旅行」などにおおと考えている人の割合が軒並み低下している。自分の能力向上のために趣味にすることをしている人が多い今年の新入社員は、趣味にボーナスをつぎ込むが、その他の無駄な出費を控え、残りは貯金に回すという、堅実な人が増えてきているといえるだろう。

図表 36 初めてのボーナスは何に使うか (2017~2019 年度)



2. 経済、社会に関すること

(1) 日本経済について

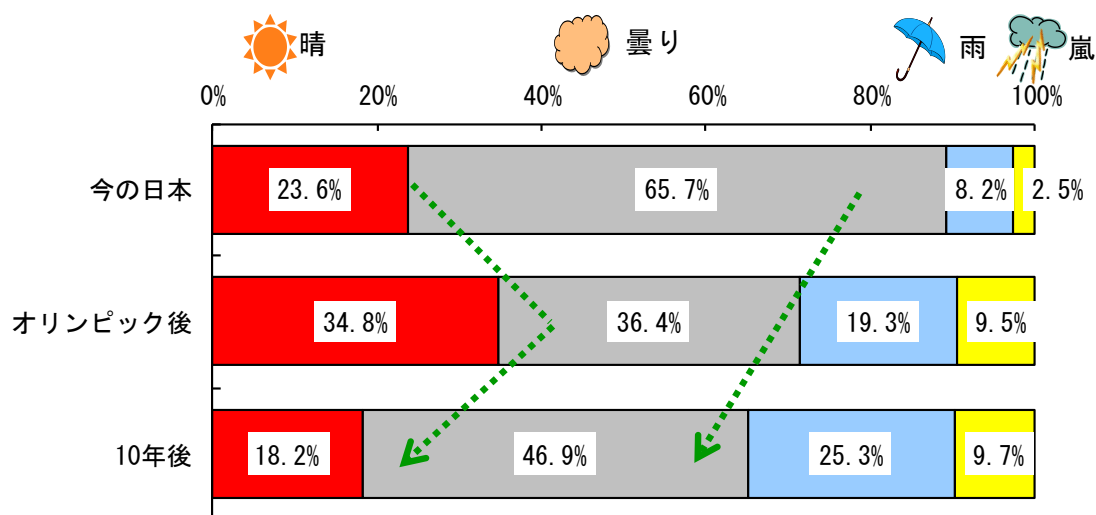
2018年度の日本経済は外需を中心に減速の兆しが見えた1年であったが、新入社員が感じる現在の経済・社会状況を天気で表現してもらったところ、最も多くの人を選んだのは「曇り」(65.7%)であった(図表37)。また、「晴」(23.6%)と答えた人の割合は「雨」(8.2%)を上回り、日本経済に対する前向きな評価が読み取れる。

東京オリンピック開催後については、「晴」(34.8%)の割合が上昇し、「曇り」(36.4%)と同程度という結果になった。一方、「雨」(19.3%)と「嵐」(9.5%)の割合は上昇している。

オリンピック開催に向けてインフラが整備されたり、設備投資が行われたりすることで、経済活動が活発になる下地がつくられることは間違いなく、新入社員はそのような効果もあって好況が続くと考えている可能性がある。あるいは、足元の良い雇用情勢の下で就職活動を行った新入社員にとって、これほど良い状態がすぐに悪化に転じるとは考えにくいのかもしれない。

このように、今後2～3年程度については前向きな見方が目立つ新入社員であるが、10年後については厳しい見方をしている。「晴」(18.2%)の回答割合はオリンピック後からほぼ半減となり、「雨」(25.3%)の回答割合の方が高まっている。さらに、「嵐」(9.7%)という回答も増加している。

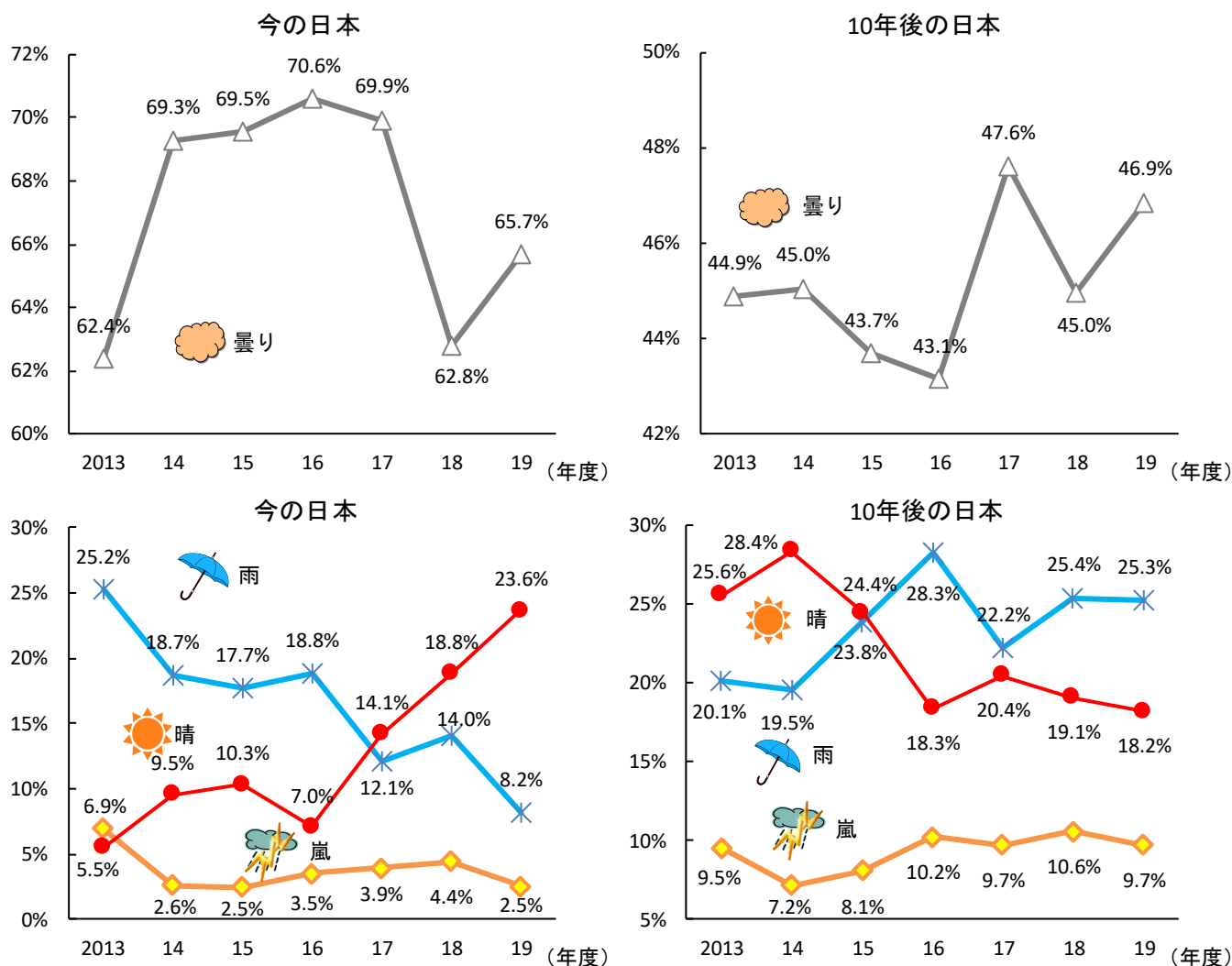
図表37 日本の状態を天気で表すと？



ここで、本設問について13年度以降の結果の推移をしてみる⁴(図表38)。現在の日本の状況について、19年度は「晴」と「曇り」の割合が上昇した一方、「雨」の割合が低下した。「嵐」の割合も低下しており、景気が後退局面に入った可能性すらある現在の経済状態をかなり楽観的にとらえていることがわかる。

10年後については、「晴」の割合がやや低下し、「雨」の割合は比較的高い水準を維持している。先行き不透明な国際情勢や、財政健全化の遅れ、追加の消費税増税の可能性などが影響し、先行きについては不安を感じているのかもしれない。

図表38 日本の状態を天気で表すと？（推移）



⁴東京オリンピック後の景気に対する問いは昨年の調査で初めて尋ねた設問であるため、「現在」と「10年後」のみについて示す。

(2) 令和に期待すること

5月1日に新天皇が即位され、新しい時代となった。これに先駆け、4月1日には、新元号が「令和」に決まったことが発表された。新元号発表時には、全国がお祝いムード一色に包まれ、新時代が明るいものになることが予感された。

そんな中で、新時代の始まりとともに社会人生活の幕を開ける、今年の新入社員は令和の時代がどのような時代になることを期待しているのだろうか。図表39で挙げた10個の選択肢の中から、最大2つ選択してもらった。

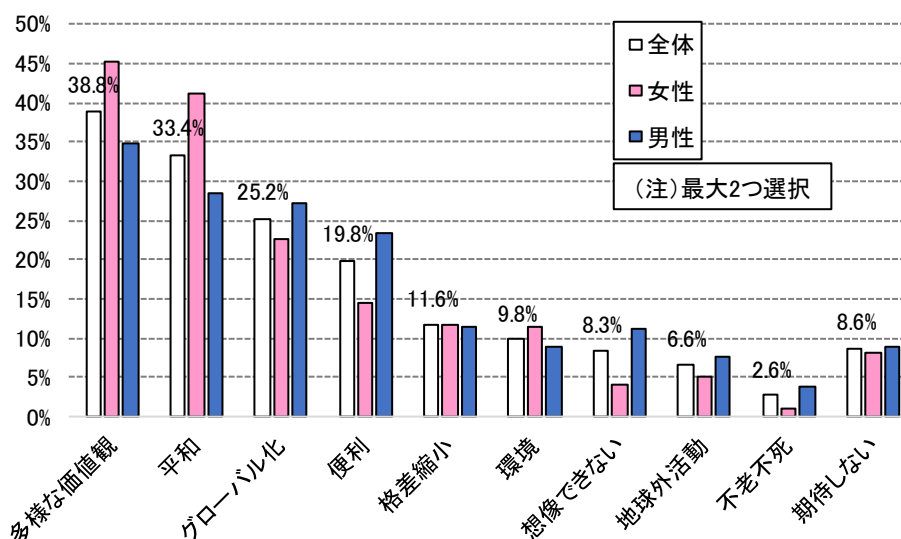
図表39 令和がどのような時代になってほしいか（選択肢）

多様な価値観が許容される時代	多様な価値観
グローバル化がさらに進展する時代	グローバル化
地球環境問題が解決に向かう時代	環境
宇宙旅行など地球の外にも活動が広がる時代	地球外活動
格差のない時代	格差縮小
平和で穏やかな時代	平和
さらに暮らしが便利になる時代	便利
現時点では想像できないほどこれまでと違った時代	想像できない
不老不死が実現する時代	不老不死
特に期待することはない	期待しない

男女ともに最も多くの人々が、令和には、「多様な価値観が許容される時代」になってほしいと考えている（全体：38.8%、女性：45.2%、男性：34.7%）。特にこの割合は女性において高い。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されて以来推し進められてきた、男女問わず、あらゆる分野で活躍できるような社会の構築が、令和以降も進んでほしいと考えていることが伺える。

次に多くの人に選ばれたのは、「平和で穏やかな時代」（33.4%）であった。平成は、近代以降で初めて、日本にとって戦争のない時代であった。新入社員の多くは、令和も同様に平和な時代になることを望んでいるようだ。

図表40 令和がどのような時代になってほしいか



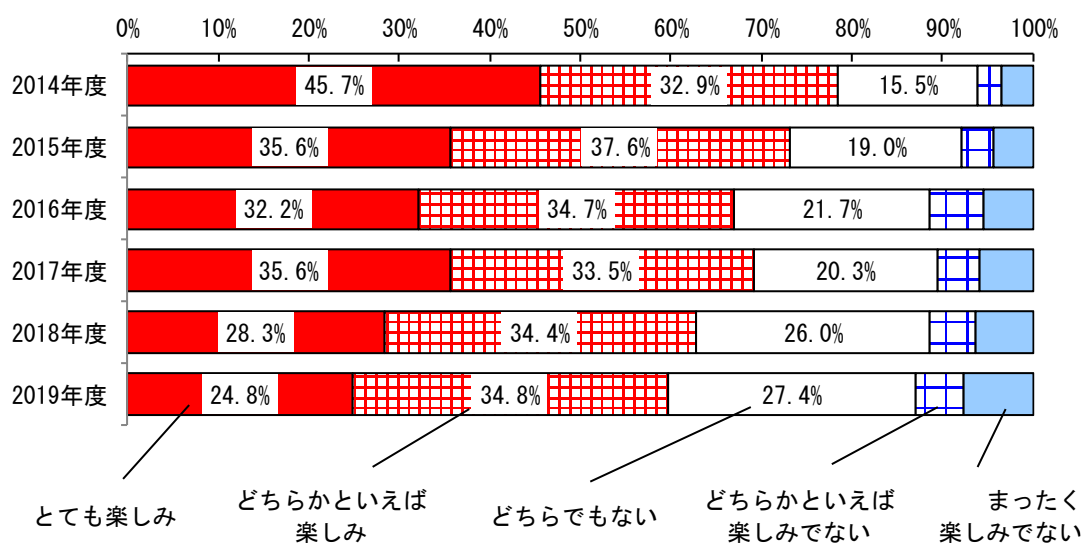
(3) 東京オリンピック・パラリンピック開催について

来年に開催される東京オリンピック・パラリンピックについては、「とても楽しみ」(24.8%)と「どちらかといえば楽しみ」(34.8%)を合わせて59.6%と、2018年度の62.7%から減少した(図表41)。アンケート調査を行った時点(2019年3月末から4月初旬)で、開催まで500日をきっているにもかかわらず、「とても楽しみ」もしくは「どちらかといえば楽しみ」と答えた人の割合は、2014年度以来、最低となった。

2018年に相次いだスポーツ界の不祥事や、当初7000億円とされていた予算が足元で1兆3500億円へ膨らんだことなどが、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を削いだ可能性がある。また、価値観が多様化し、1964年の東京五輪開催時のように、国を挙げて皆が熱狂することは想像できなくなっているのかもしれない。

ただし、「とても楽しみ」もしくは「どちらかといえば楽しみ」と答えた人の割合は依然過半数を占めており、オリンピック・パラリンピック人気は依然として高いといえるだろう。

図表 41 東京オリンピック・パラリンピック開催について



(4) 東京オリンピック・パラリンピック開催後のイベント

東京オリンピック・パラリンピック開催後に予定されているイベントに関してはどれだけ関心を持っているのだろうか。今回の調査では、図表 42 で示した選択肢から、最大 2 つ選択してもらった。

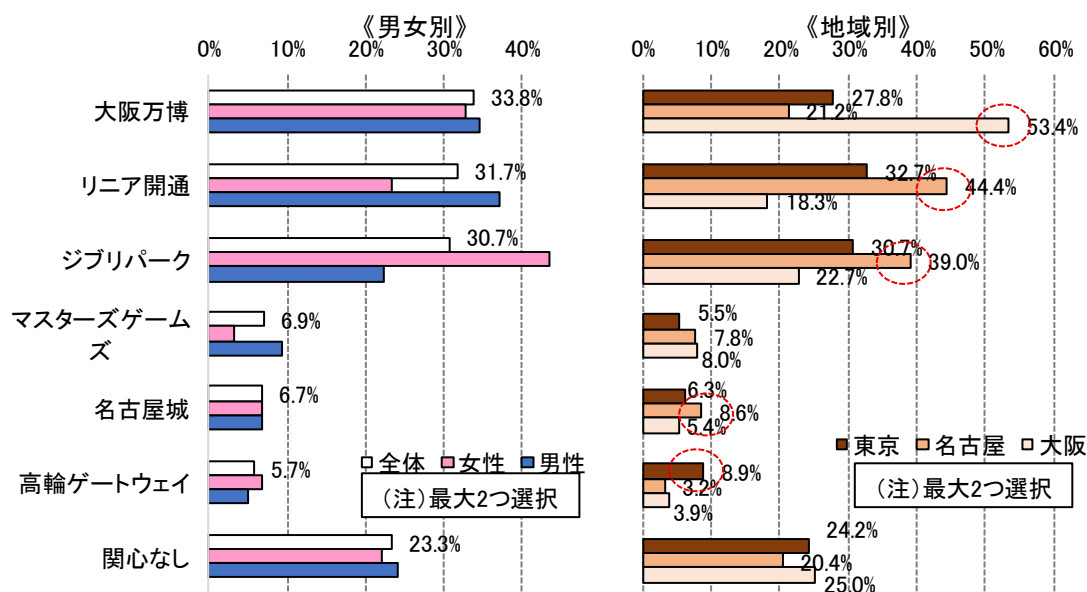
図表 42 東京オリンピック・パラリンピック開催後のイベント

高輪ゲートウェイ駅開業	2020年
ワールドマスタースゲームズ2021関西開催	2021年アジア初
愛・地球博記念公園に「ジブリパーク」が開園	2022年
名古屋城天守閣の木造復元	2022年竣工予定
大阪万博開催	2025年
リニア中央新幹線（品川～名古屋間）開通	2027年
特に関心のあるものはない	

全体で最も多く選ばれたのは、「大阪万博」(33.8%)であった(図表 43)。男女別で見ると、女性には「ジブリパーク」(43.4%)が、男性には「リニア開通」(37.1%)が最も多く選ばれた。また地域別で見ると、「大阪万博」は大阪の人に、「リニア開通」や「ジブリパーク」は名古屋の人に最も多く選ばれるなど、新入社員は地元で予定されているイベントに、より高い関心を払う傾向にあることが見て取れる。

一方で、「特に関心のあるものはない」と答えた人が全体の 2 割を超えた(23.3%)。東京オリンピック・パラリンピックに関心を持っていない人が増えてきていることと同様に、価値観の多様化が、特に関心のあるイベントを持っていない人が一定数いることを説明できるかもしれない。

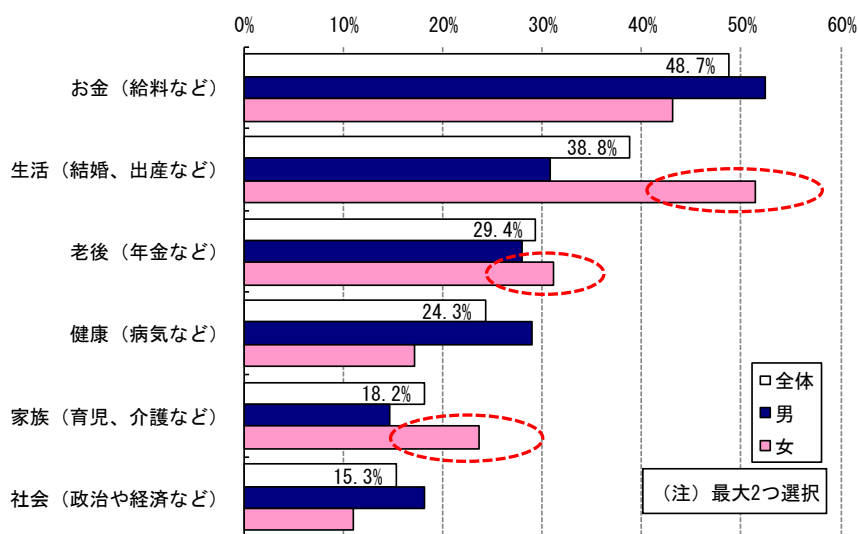
図表 43 東京オリンピック・パラリンピック開催後のイベント(男女別、地域別)



(5) 将来への不安

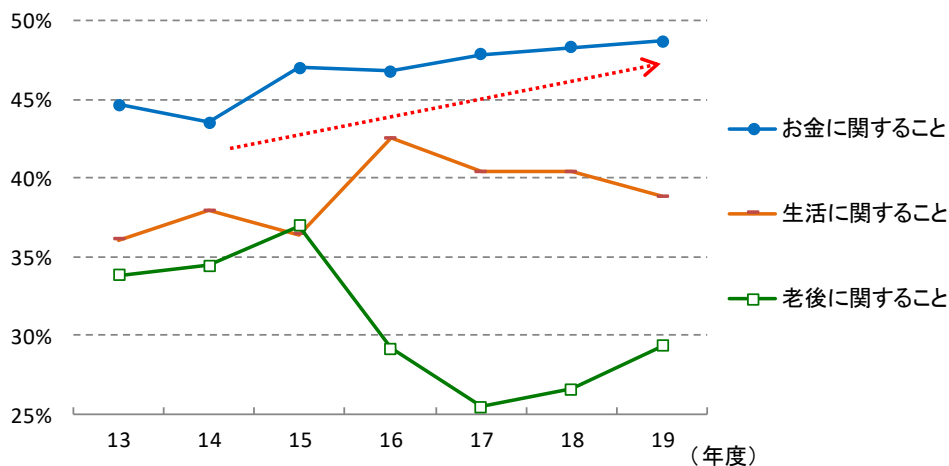
今後、多様なライフコースをたどると考えられる新入社員であるが、現時点で将来に対して不安に思っていることは何だろうか。図表 44 の 6 つの選択肢の中から、特に不安に思うことについて、最大 2 つ選んでもらった。結果を見ると、最も多かったのは昨年度と同様に「お金」(48.7%)で、続いて「生活」(38.8%)であった(図表 44)。もともと、男女で比べると中身は随分異なり、女性は「生活」、「老後」、「家族」の割合が男性より高く、ライフイベントについての不安が大きいようだ。

図表 44 将来に関する不安



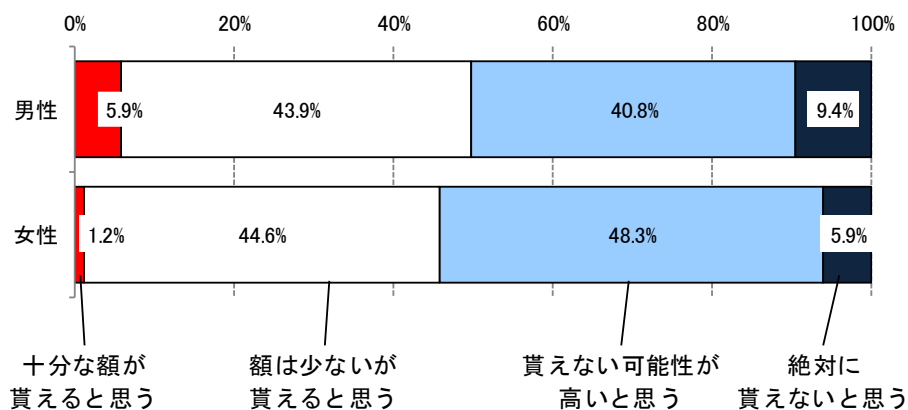
最も多くの人を選んだ「お金」は、近年、回答割合が緩やかに上昇している(図表 45)。春闘では賃上げが続き、新卒初任給も上昇しているが、依然、将来も十分な給料がもらえるかという点については、多くの新入社員が不安を抱いているようだ。また、将来の経済・社会状況に対する懸念があること(図表 37、38 参照)も、「お金」に関する不安の高まりにつながっている可能性がある。

図表 45 将来に関する不安(2013~2019 年度)



3 番目に多かった「老後」(29.4%)に対する不安は、以前と比べれば回答割合が低下しているものの、足もとでは再び上昇に転じた(図表 45)。自分たちの世代が年金を貰えると思うかについては、引き続き過半数が「絶対に貰えないと思う」もしくは「貰えない可能性が高いと思う」と回答しており(図表 46)、「老後」に対する不安の一部は、年金がもらえない可能性によってもたらされていることが推察される。

図表 46 年金について

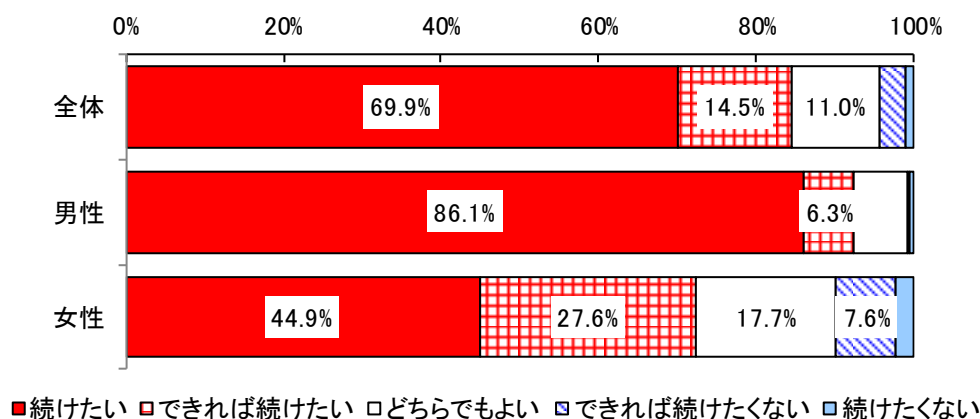


3. 暮らしに関すること

(1) 結婚や出産と仕事について

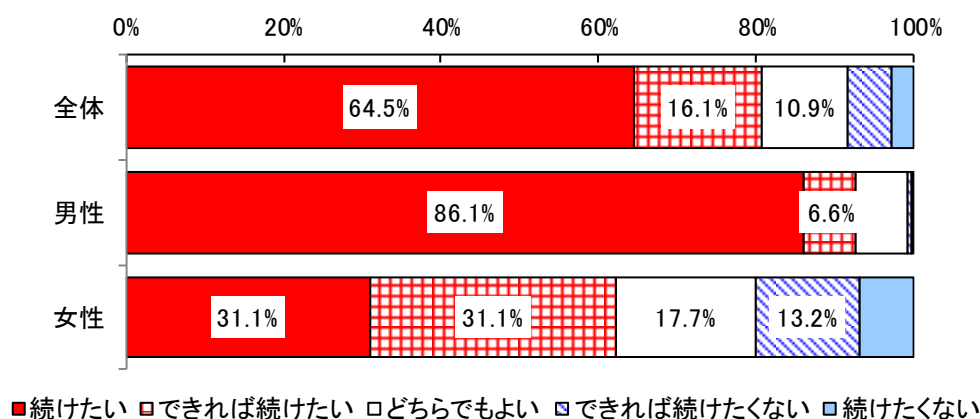
近年、日本では人口減少に直面する中で、晩婚化や未婚化が進んでいる。また、女性の社会進出に伴い、結婚や出産後の就業に関する考え方は変化していると考えられる。そこで、新入社員に結婚後と子どもが生まれた後の就業についての考えを尋ねた。結婚したら、その後も仕事を続けたいか、という問いには「続けたい」(69.9%)、「できれば続けたい」(14.5%)という前向きな回答が多く、「できれば続けたくない」(3.3%)、「続けたくない」(1.2%)という否定的な回答はごく少数であった(図表 47)。

図表 47 結婚したら、その後も仕事を続けたいか



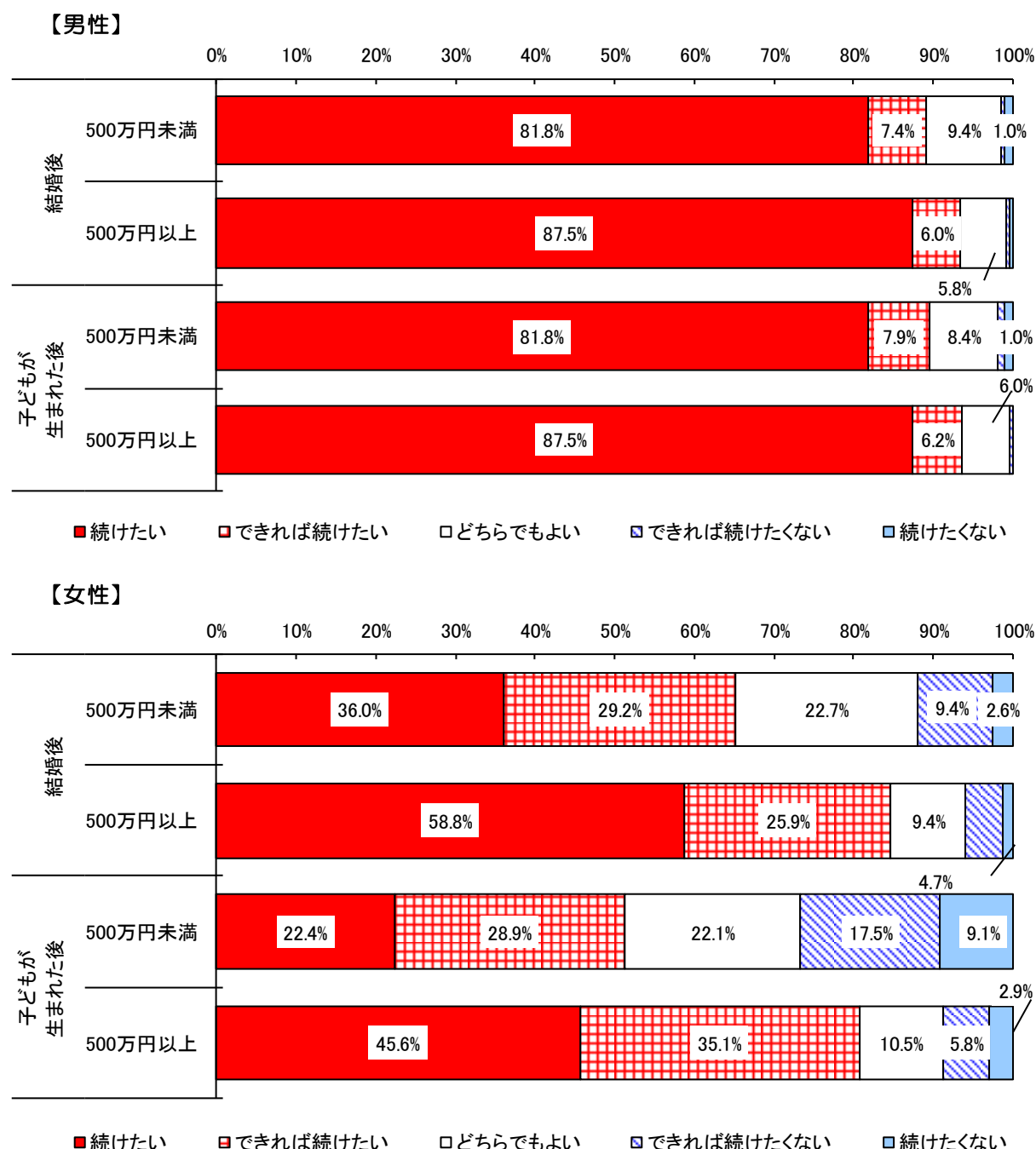
また、子どもが生まれたら、その後も仕事を続けたいか、という問いに対しては、全体では「続けたい」(64.5%)が最も多かった(図表 48)。女性に限っても「続けたい」(31.3%)と「できれば続けたい」(31.3%)が同率で最多であるが、加えて、「どちらでもよい」(17.7%)の割合も高い。職場やパートナーなど周囲の理解と協力が得られることや、子供を保育所に預けられることなどの前提が満たされれば、仕事を続けたいと考える女性が多いようだ。

図表 48 子どもが生まれたら、その後も仕事を続けたいか



予想最高年収が高いグループ(500万円以上)と低いグループ(500万円未満)に分けて、回答を見てみたところ(図表49)、男性も女性も、将来的に自らの年収が高まると考えるグループほど仕事を「続けたい」と答える割合が高かった。もっとも、予想最高年収が500万円以上の女性であっても「できれば続けたい」という、条件付きの回答が多い。男女の雇用機会の均等化や、家庭での家事分担の広まりなど、男女間の役割の差は縮小傾向にあるとみられるが、仕事を続けるかに関しては、依然として男女間に意識の差がある。

図表 49 結婚後、子どもが生まれた後も仕事を続けたいか

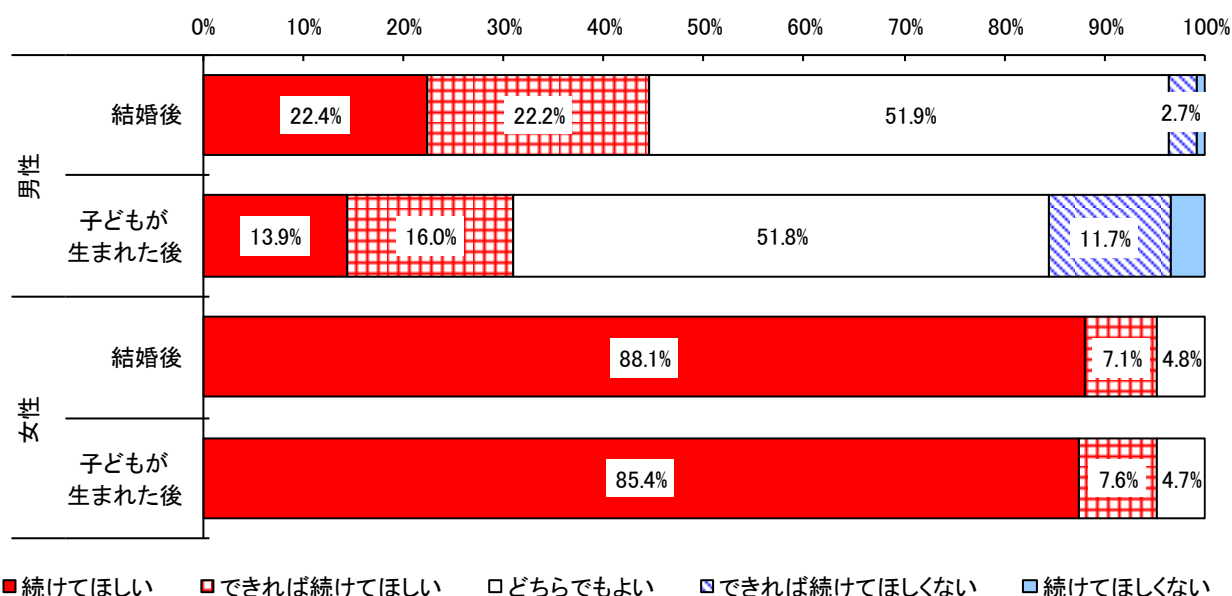


続いて、パートナーの就業継続について、男女別にみると(図表 50)、男性の場合は、パートナーが結婚後や出産後も就業を続けることについて、「どちらでもよい」が最も多いが、「続けてほしい」、「できれば続けてほしい」もそれなりに多い。このことから、パートナーの就業継続に対する柔軟な姿勢がうかがえる。

一方で女性も、9 割以上が結婚後、また子供が生まれた後、パートナーに仕事を「続けてほしい」もしくは「できれば続けてほしい」と回答している。また、「続けてほしくない」もしくは「できれば続けてほしくない」と回答した女性は一人もいなかった。

このようにパートナーの就業継続については、男女間で回答の分布に差が大きい。

図表 50 結婚したらその後、子どもが生まれたらその後、
パートナーに仕事を続けてほしいか

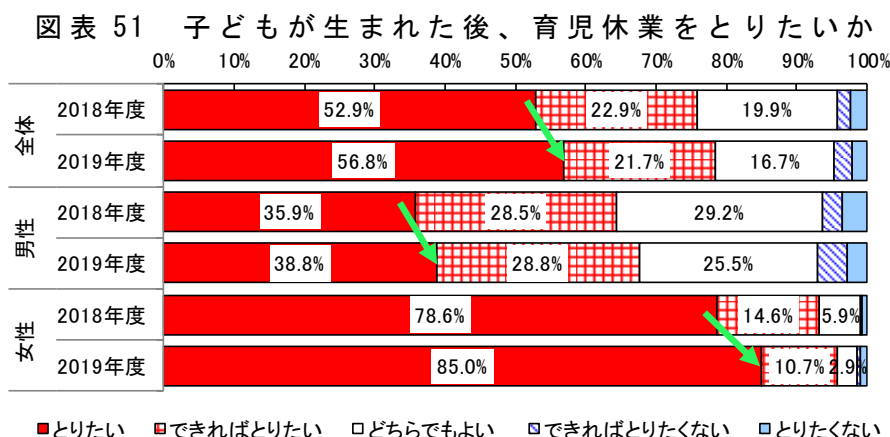


(2) 育児休業について

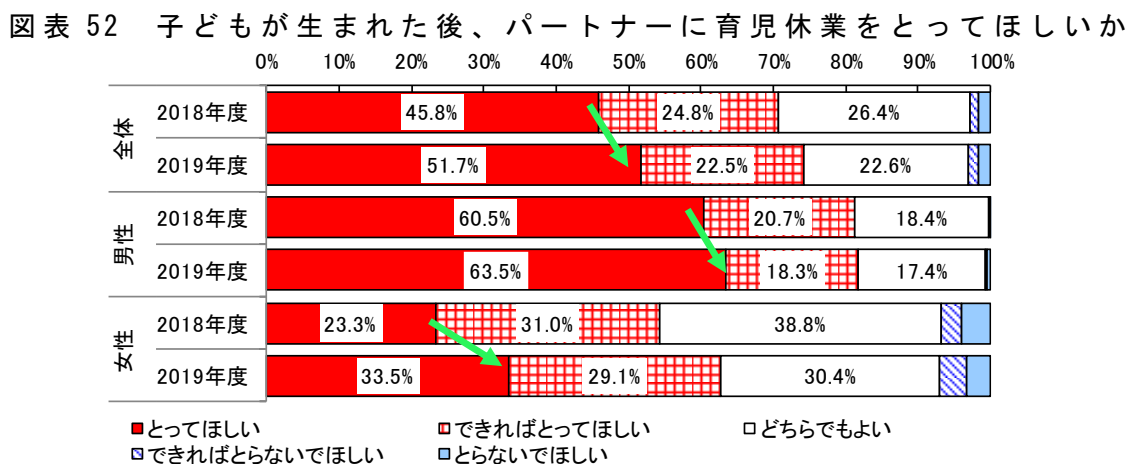
子どもが生まれた後の選択として、育児休業の取得が挙げられる。近年、育児に積極的に取り組む男性を指す「イクメン」という言葉も浸透してきたが、新入社員は男性の育児参加をどのように考えているのだろうか。

多くの新入社員は子どもが生まれた後、育児休業を「とりたい」もしくは「できればとりたい」(男性:67.6%、女性 95.7%)と考えている(図表 51)。また、2018 年度と比較しても、男女ともに育児休業をとりたいと考える新入社員が増えている。

もっとも、男性は「できればとりたい」(28.8%)という消極的な回答も多かった。就職後、実際に周りの社員が育児休業を取得しているところを見たり、「イクボス(部下の仕事と育児の両立を支援する管理職)」の後押しを受けたりすれば、育児参加により前向きになる男性社員が増えるかもしれない。



さらに、パートナーの育児休業取得についても尋ねた。男女ともに 2018 年度よりも「とってほしい」と回答している人の割合は上昇している。特に女性において、パートナーに育児休業をとってほしいと考えている人の割合の上昇は顕著であり、男女間の回答の分布の差は依然大きいものの、縮小したことが確認される。このことから、性別役割分業の意識は残っているものの、若年層において、この意識は徐々に薄れてきていることがうかがえる。



参考図表 1 アンケート票

本アンケートは、無記名となっております。お名前の記入は不要です。

下記内容をご確認いただき、ご同意の上ご記入ください。

アンケート結果は、今後のセミナー運営・企画の際に参考にさせていただきます。また、新入社員の方々の全体傾向を把握することを目的としたものであり、特定個人の情報を入手することを目的とするものではありません。集計結果に当社の分析を付して、当社刊行物・新聞等に掲載発表させて頂く場合があります。

差し支えなければご記入をお願いいたします。該当する箇所「✓」をつけてください

性別

☐ ①男性

☐ ②女性

最終学歴

☐ ①高校

☐ ②高専

☐ ③専門学校

お勤め先の業種

☐ ④短期大学

☐ ⑤大学

☐ ⑥大学院

☐ ①製造業

☐ ②製造業以外

☐ ③分からない

☐ ⑦その他（具体的に： ）

今回の研修のご感想

1. 当てはまるもの1つに✓をつけてください

☐ ①大変よかった

☐ ②よかった

☐ ③まあまあ

☐ ④期待外れ

2. その他のご感想をご自由にお書きください

会社、仕事、働き方、上司に関するあなたのお考えを教えてください

1. ①～⑧について、ご自身のお考えに近いのはA、Bのどちらですか？（A、Bどちらかに✓を付けてください。）

① A. 出世したい ☐ ← → ☐ B. 出世しなくても好きな仕事を楽しみたい

② A. 定年まで同じ会社で働きたい ☐ ← → ☐ B. 自分にもっとあった会社があれば転職したい

③ A. 目標を与えられ、達成に向けてがんばりたい ☐ ← → ☐ B. 目標はプレッシャーになるのでない方がよい

④ A. 緊張感をもって厳しく指導してほしい ☐ ← → ☐ B. やさしくていねいに教えてほしい

⑤ A. やったらやっただけ給料を上げてほしい ☐ ← → ☐ B. 同期の中ではあまり差をつけないでほしい

⑥ A. 残業が多くても給料が増えるのだからよい ☐ ← → ☐ B. 給料が増えなくても残業はない方がよい

⑦ A. 幅広く色々な仕事をマスターしたい ☐ ← → ☐ B. 一つの仕事に熟練してエキスパートになりたい

⑧ A. 上司や仲間と時々飲みに行きたい ☐ ← → ☐ B. 会社の人と飲みに行くのは気がすまない

2. 会社に望むことは何ですか？ 次のA～Hの8つの選択肢から最も望むことを3つ順に選んでください

- | | |
|--------------------|-----------------|
| A. 自分の能力の発揮・向上ができる | E. 人間関係がよい |
| B. 私生活に干渉されない | F. 地位が上がる |
| C. 評価・処遇を公平にしてくれる | G. 仕事場・休憩室などが快適 |
| D. 給料が増える | H. 残業がない・休日が增える |



【例】

1番目： C
2番目： H
3番目： F

【回答欄】

1番目：
2番目：
3番目：

3. 仕事・職場生活に関して不安なことは何ですか？（✓は2つまで ※不安のない方は回答不要です）

☐ ①仕事が自分にあっていて、うまくできるか

☐ ②上司・先輩・同僚との人間関係

☐ ③環境の変化に心身がうまく対応できるか

☐ ④自分の時間が少なくなり好きなことができない

☐ ⑤給料でこれまで通りの生活ができるか

☐ ⑥リストラ・解雇

4. 社会人としての自分に、自信のあるもの・欠けているものは何だと思いますか？

自信のあるもの2つに「○」、欠けているもの2つに「×」を、それぞれつけてください

☐ ①「創造力」：新しいことを考えさせる

☐ ②「思考力」：広く深くものごとを考えられる

☐ ③「集中力」：気が散らず一心に取り組める

☐ ④「忍耐力」：つらく面倒なことでも耐えられる

☐ ⑤「積極性」：率先して意見し、すぐに行動できる

☐ ⑥「責任感」：まかされたことをやり遂げられる

☐ ⑦「順応力」：新しい環境や仕事にすぐになじめる

☐ ⑧「協調性」：まわりの人と衝突せず協力できる

☐ ⑨「体力」：たくさんの仕事をこなせる

☐ ⑩「社交性」：自ら進んで色々な人と交流できる

☐ ⑪「対人対応力」：適切にコミュニケーションがとれる

5A. 理想の上司はどのタイプですか？（✓は1つ）

☐ ①「カリスマ型」：シビアな面もあるが、天性の才能を持つカリスマ的存在

☐ ②「寛容型」：情に流されやすい面もあるが、寛容的で忍耐強い人格者

☐ ③「論理型」：柔軟性に乏しい面もあるが、論理的で責任感が強い

☐ ④「平凡型」：目立った長所はないが、特に短所もなく常識的

☐ ⑤「情熱型」：やりすぎる面もあるが、バイタリティに富み、何事にも熱心

☐ ⑥「調整型」：八方美人な面もあるが、順応性が高く、調整や交渉が得意

☐ ⑦「アイデア型」：マイベスすぎる面もあるが、発想豊かなアイデアマン

☐ ⑧「ムードメーカー型」：軽薄な面もあるが、ユーモラスな盛り上げ役

B. 理想の上司を人間以外の動物に例えたと何ですか？ ご自由にお答えください（理由やイメージがあればお書きください）

動物名：

理由・イメージ（1行程度）：

就職活動に関して教えてください

6. 就職活動はどうでしたか？（✓は1つ）

☐ ①とても大変だった ☐ ②大変だった ☐ ③どちらでもなかった ☐ ④楽だった ☐ ⑤とても楽だった

7. 最初の内定が出た時期はいつ頃でしたか？（✓は1つ）

☐ ①18年5月末まで ☐ ②18年6月 ☐ ③18年7～8月 ☐ ④18年9～10月 ☐ ⑤18年11～12月 ☐ ⑥19年1月以降

8. 就職活動の際、「ブラック企業」ではないかという点を気にしましたか？（✓は1つ）

☐ ①気にした ☐ ②少しは気にした ☐ ③あまり気にしなかった ☐ ④気にしなかった

9. 何を基準に会社を選びましたか？（✓は2つまで）

☐ ①仕事のやりがいがある

☐ ②雰囲気が良い

☐ ③業績が安定している

☐ ④給料が良い

☐ ⑤能力が活かせる

☐ ⑥社会に貢献している

☐ ⑦実家から通勤できる、実家に近い

☐ ⑧その他（具体的に： ）

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

（お問い合わせ）調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp

経済・社会に関するあなたのお考えを教えてください

10. 今の日本の状態を天気で表わすと、どのような状態だと思いますか？（✓は1つ）
- ☐ (晴れ)  ☐ (曇り)  ☐ (雨)  ☐ (嵐) 
11. 東京オリンピック・パラリンピック開催後（2021～22年頃）の日本の状態を天気で表わすと、どのような状態だと思いますか？（✓は1つ）
- ☐ (晴れ)  ☐ (曇り)  ☐ (雨)  ☐ (嵐) 
12. 10年後の日本の状態を天気で表わすと、どのような状態だと思いますか？（✓は1つ）
- ☐ (晴れ)  ☐ (曇り)  ☐ (雨)  ☐ (嵐) 
13. 将来に関して不安なことは何ですか？（✓は2つまで ※不安のない方は回答不要です）
- ☐ ①給料などお金に関すること ☐ ②年金など老後に関すること ☐ ③病気など健康に関すること
☐ ④結婚、出産など生活に関すること ☐ ⑤育児、介護など家族に関すること ☐ ⑥政治や経済など社会に関すること
14. 将来、自分たちの世代は年金を貰えると思いますか？（✓は1つ）
- ☐ ①十分な額が貰える ☐ ②額は少ないが貰える ☐ ③貰えない可能性が高い ☐ ④絶対に貰えない
15. 将来、何歳まで働き続けたいですか？（✓は1つ）
- ☐ ①～54歳 ☐ ②55～59歳 ☐ ③60～64歳 ☐ ④65～69歳 ☐ ⑤70～74歳 ☐ ⑥75歳～（いつかは退職） ☐ ⑦生涯現役
16. 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催は楽しみですか？（✓は1つ）
- ☐ ①とても楽しみ ☐ ②どちらかといえば楽しみ ☐ ③どちらでもない ☐ ④どちらかといえば楽しみでない ☐ ⑤まったく楽しみでない
17. 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催後に予定されている、どのイベントに最も関心を持っていますか？（✓は2つまで）
- ☐ ①高輪ゲートウェイ駅開業（2020年） ☐ ②ワールドマスターズゲームズ2021関西開催（2021年、アジア初）
☐ ③愛・地球博記念公園に「ジブリパーク」が開園（2022年） ☐ ④名古屋城天守閣の木造復元（2022年竣工） ☐ ⑤大阪万博開催（2025年）
☐ ⑥リニア中央新幹線（品川～名古屋間）開通（2027年） ☐ ⑦特に関心のあるものはない
18. 5月1日に元号が変わり、新たな時代を迎えます。
時を同じくして社会人となった皆さまは、この新しい元号の時代について、どのような時代になることを期待しますか？（✓は2つまで）
- ☐ ①多様な価値観が許容される時代 ☐ ②グローバル化がさらに進展する時代 ☐ ③地球環境問題が解決に向かう時代
☐ ④宇宙旅行など地球の外にも活動が広がる時代 ☐ ⑤格差のない時代 ☐ ⑥平和で穏やかな時代 ☐ ⑦さらに暮らしが便利になる時代
☐ ⑧現時点では想像できないほどこれまでと違った時代 ☐ ⑨不老不死が実現する時代 ☐ ⑩特に期待することはない

その他に関して教えてください

19. 自分の能力向上のために何かしていますか？（✓は1つ）
- ☐ ①している ☐ ②していない
- 「している」と答えた方は、具体的に何ですか？（✓はいくつでも）
- ☐ ①語学学習（英会話、TOEIC、中国語会話など） ☐ ②趣味に関すること（お稽古事など）
☐ ③資格勉強（簿記、貿易実務など）※語学系は除く ☐ ④その他（具体的に：_____）
20. 将来、自分の年収は最高でいくくらいになると思いますか？（✓は1つ）
- ☐ ①300万円未満 ☐ ②300～500万円 ☐ ③500～700万円 ☐ ④700～1000万円 ☐ ⑤1000万円以上
21. 初めてのボーナスは誰と、もしくは誰のために使う予定ですか？（✓はいくつでも）
- ☐ ①自分 ☐ ②両親 ☐ ③祖父母 ☐ ④兄弟姉妹 ☐ ⑤友達 ☐ ⑥パートナー（配偶者・恋人など） ☐ ⑦ペット
22. 初めてのボーナスは何に使う予定ですか？（✓はいくつでも）
- ☐ ①旅行 ☐ ②食事 ☐ ③電気機器 ☐ ④宝飾品（時計・アクセサリーなど） ☐ ⑤洋服・靴 ☐ ⑥借入金返済（奨学金など）
☐ ⑦趣味・娯楽品（書籍・映画・車など） ☐ ⑧ペット・植物関係 ☐ ⑨習い事 ☐ ⑩投資（株・FX・不動産など） ☐ ⑪貯金
23. 将来、海外勤務をしてみたいと思いますか？（✓は1つ）
- ☐ ①したい ☐ ②してもよい ☐ ③あまりしたくない ☐ ④したくない ☐ ⑤場所による
24. 兼業・副業をしたいと思いますか？（✓は1つ）
- ☐ ①したい ☐ ②したくない
- 「したい」と答えた方は、具体的にどのような兼業・副業をしたいと思いますか？（✓はいくつでも）
- ☐ ①本業の知見を活かした仕事 ☐ ②趣味を活かした仕事 ☐ ③学生時代の経験を活かした仕事
☐ ④NPO、NGOの活動 ☐ ⑤具体的には考えていない ☐ ⑥その他（具体的に：_____）
25. 結婚したら、その後も仕事を続けたいと思いますか？ また、パートナーに仕事を続けてほしいと思いますか？
- ご自身（✓は1つ） ☐ ①続けたい ☐ ②できれば続けたい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できれば続けたくない ☐ ⑤続けたくない
パートナー（✓は1つ） ☐ ①続けてほしい ☐ ②できれば続けてほしい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できれば続けてほしくない ☐ ⑤続けてほしくない
26. 子どもが生まれたら、その後も仕事を続けたいと思いますか？ また、パートナーに仕事を続けてほしいと思いますか？
- ご自身（✓は1つ） ☐ ①続けたい ☐ ②できれば続けたい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できれば続けたくない ☐ ⑤続けたくない
パートナー（✓は1つ） ☐ ①続けてほしい ☐ ②できれば続けてほしい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できれば続けてほしくない ☐ ⑤続けてほしくない
27. 子どもが生まれたら、育児休業をとりたいですか？ また、パートナーに育児休業をとってほしいですか？
- ご自身（✓は1つ） ☐ ①とりたい ☐ ②できればとりたい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できればとりたくない ☐ ⑤とりたくない
パートナー（✓は1つ） ☐ ①とってほしい ☐ ②できればとってほしい ☐ ③どちらでもよい ☐ ④できればとらないでほしい ☐ ⑤とらないでほしい

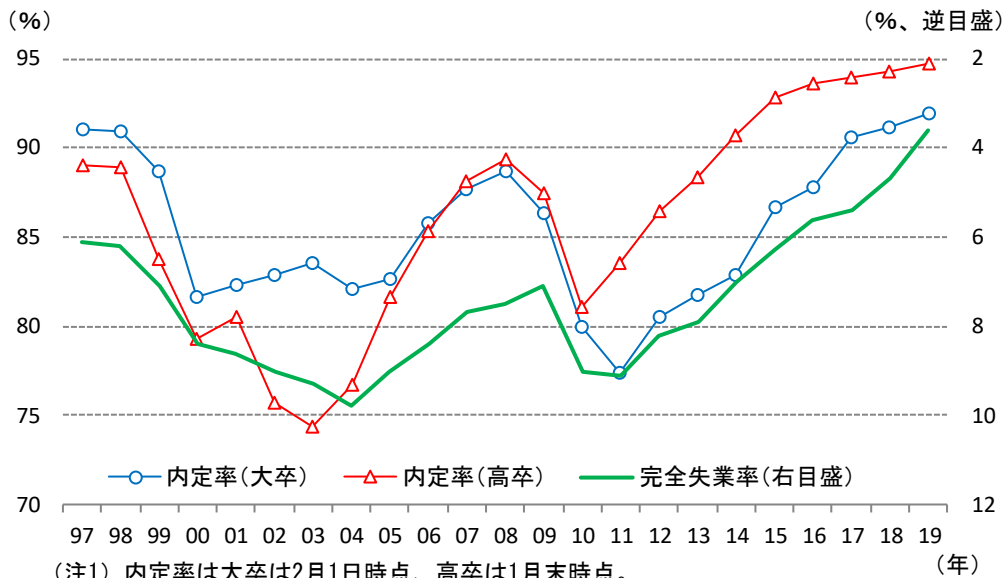
アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

参考図表 2 新入社員の育ってきた環境

		日本のできごと		世界のできごと		【歴代首相】	
1996 (平成8)	0歳	誕生	O157(病原性大腸菌)が流行し食中毒が多発 海の日(7月20日)が施行		世界初のクローン羊「ドリー」が誕生 ●アトランタ・オリンピック●	橋本龍太郎 (1996/1/11~)	
1997 (平成9)	1歳		消費税率が3%から5%へと引上げ 神戸連続児童殺傷(酒鬼薔薇聖斗)事件が発生 北海道拓殖銀行が破綻 山一證券が自主廃業 京都議定書が採択		香港がイギリスから中国へ返還 タイの変動相場制導入をきっかけにアジア通貨危機が発生 ダイアナ元イギリス皇太子妃が事故死		
1998 (平成10)	2歳		日本長期信用銀行および日本債券信用銀行が公的管理下へ 初めてコンシューマー向けに設計されたWindows 98(日本語版)が発売 郵便番号が5桁から7桁に		FIFAワールドカップ・フランス大会(日本代表が初出場) ○長野・冬季オリンピック○		小淵恵三 (1998/7/30~)
1999 (平成11)	3歳		子どもや高齢者がいる世帯に対し1人2万円の「地域振興券」が配布 日本銀行がゼロ金利政策を実施		マカオがポルトガルから中国へ返還		
2000 (平成12)	4歳		小淵恵三氏が総理在任中に死去、内閣総辞職 いわゆる「ハッピーマンデー制度」によって一部の国民の休日が月曜日に移行 少年法等が一部改正され、刑事処分が可能な年齢が16歳から14歳へと引下げ 二千円札が発行開始		●シドニー・オリンピック●		森喜朗 (2000/4/5~)
2001 (平成13)	5歳		ユニバーサル・スタジオ・ジャパンおよび東京ディズニーシーが開園 敬愛愛子内親王殿下ご誕生		アメリカ・ブッシュ(共和党)大統領就任 アメリカで同時多発テロ事件が発生(「9.11テロ」) アメリカがアフガニスタンに侵攻		小泉純一郎 (2001/4/26~)
2002 (平成14)	6歳	小学生	完全学校週5日制、いわゆる「ゆとり教育」が開始 日韓共同によるFIFAワールドカップが開催		欧州連合の加盟12カ国で単一通貨ユーロの流通が開始		
2003 (平成15)	7歳		りそな銀行に対して公的資金の注入 東海道新幹線・品川駅が開業 六本木ヒルズがグランドオープン		胡錦濤氏が中国国家主席に就任 アメリカによる対イラク攻撃が開始(イラク戦争) 重症急性呼吸器症候群(SARS)が世界的に流行		
2004 (平成16)	8歳		千円、五千円、一万円札が改刷 アメリカでの狂牛病発生に伴い米国産牛肉が輸入停止 消費税の内税(総額)表示が義務化 政治家の年金未納問題が相次ぐ 愛知県で日本国際博覧会「愛・地球博」が開幕 中部国際空港(セントレア)が開港		インドネシア・スマトラ島沖地震が発生 ●アテネ・オリンピック●		
2005 (平成17)	9歳		個人情報保護法が全面施行 総人口が初めて減少 (減少傾向に入るのは09年)		イギリス・ロンドンで地下鉄等の同時爆破テロ事件が発生 アメリカにハリケーン「カトリーナ」が上陸		
2006 (平成18)	10歳		小泉純一郎氏の任期満了に伴い、(第1次)安倍政権が発足 日本銀行がゼロ金利政策を解除 いわゆる「ライブドア・ショック」が発生		第1回WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)開催 (日本代表が優勝)	安倍晋三 (2006/9/26~)	
2007 (平成19)	11歳		「みどりの日」を4月29日から5月4日へ変更、4月29日は「昭和の日」に 郵政民営化がスタート 第1回東京マラソンが開催		アメリカでサブプライムローン問題が顕在化 アップル社「iPhone(初代)」がアメリカで発売	福田康夫 (2007/9/26~)	
2008 (平成20)	12歳	中学生	未成年者の喫煙防止対策の一環として「taspo(タスポ)」が開始 景気の急速な悪化を受けて、政府・日本銀行が各種緊急対応		原油価格が急騰し、初めて\$100/バレルを超える 世界同時株安が進む中、「リーマン・ショック」が発生 ●北京・オリンピック●	麻生太郎 (2008/9/24~)	
2009 (平成21)	13歳		一人1万2千円(子どもや高齢者は一人2万円)の「定額給付金」が支給 衆議院議員総選挙で民主党が圧勝し(「政権交代」)、鳩山政権が発足 裁判員制度が開始		バラク・オバマ(民主党)大統領就任(初の黒人) 新型インフルエンザが世界的に流行	鳩山由紀夫 (2009/9/16~)	
2010 (平成22)	14歳		参議院議員通常選挙で与党(民主党)が過半数に届かず「ねじれ国会」に 内閣府に行政刷新会議が設置され、いわゆる「事業仕分け」が開始 急速な円高の進行を受けて、6年半ぶりに外国為替平衡操作(為替介入)が実施 尖閣諸島付近で海上保安庁の巡視船と中国漁船が衝突			菅直人 (2010/6/8~)	
2011 (平成23)	15歳		東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)とそれに伴う福島原子力発電所の事故が発生 アナログ放送が終了し地上デジタル放送へ完全移行(除く被災3県) 授業時数の増加などの新しい学習指導要領の実施開始		(いわゆる「脱ゆとり」) アラブ諸国の民主化、いわゆる「アラブの春」が本格化	野田佳彦 (2011/9/2~)	
2012 (平成24)	16歳		衆議院議員総選挙で自民党が圧勝し与党に返り咲き、(第2次)安倍政権が発足 東京スカイツリーが開業		欧州において財政金融危機が発生し、ユーロ安が進む ●ロンドン・オリンピック●	安倍晋三 (2012/12/26~)	
2013 (平成25)	17歳	高校生	参議院議員通常選挙で自民党と公明党の連立与党が過半数を超え「ねじれ国会」が解消 2020年東京・オリンピックの誘致決定 富士山が世界遺産に登録決定		習近平氏が中国国家主席に就任		
2014 (平成26)	18歳		消費税率が5%から8%へと引上げ 日本一の高さのビル・あべのハルカスがグランドオープン		欧州中央銀行が主要国で初めてマイナス金利政策を導入		
2015 (平成27)	19歳		北陸新幹線、長野駅-金沢駅間の開通 日経平均株価が15年ぶりに2万円台を回復 2016年伊勢志摩サミットの開催決定 安全保障関連法案の成立		アメリカとキューバが54年ぶりに国交回復 ミラノ国際博覧会開催		
2016 (平成28)	20歳		日本銀行がマイナス金利政策を導入 熊本地震が発生 小池百合子氏が東京都知事に就任 選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられる		オバマ大統領が広島を訪問 ●リオ・デ・ジャネイロ・オリンピック●		
2017 (平成29)	21歳		電通の違法残業問題や政権の「働き方改革」を背景に長時間労働は正の機運が高まる 日産自動車、神戸製鋼所などで、検査や品質データの不正が発覚		米国でトランプ政権が発足 北朝鮮がミサイルの発射実験を繰り返す		
2018 (平成30)	22歳	大学生	平成30年7月豪雨(西日本豪雨)が発生 一連のオウム真理教事件に関わった13人の死刑が執行される 北海道胆振東部地震が発生 日経平均株価が10月に27年ぶりの高値をつける		米中貿易摩擦をはじめ、通商問題が過熱化 シンガポールで史上初の米朝首脳会談開催		
2019 (平成31/ 令和元)	23歳		就職				

(出所) 各種資料をもとに、MURC作成

参考図表 3 新入社員を取り巻く雇用環境

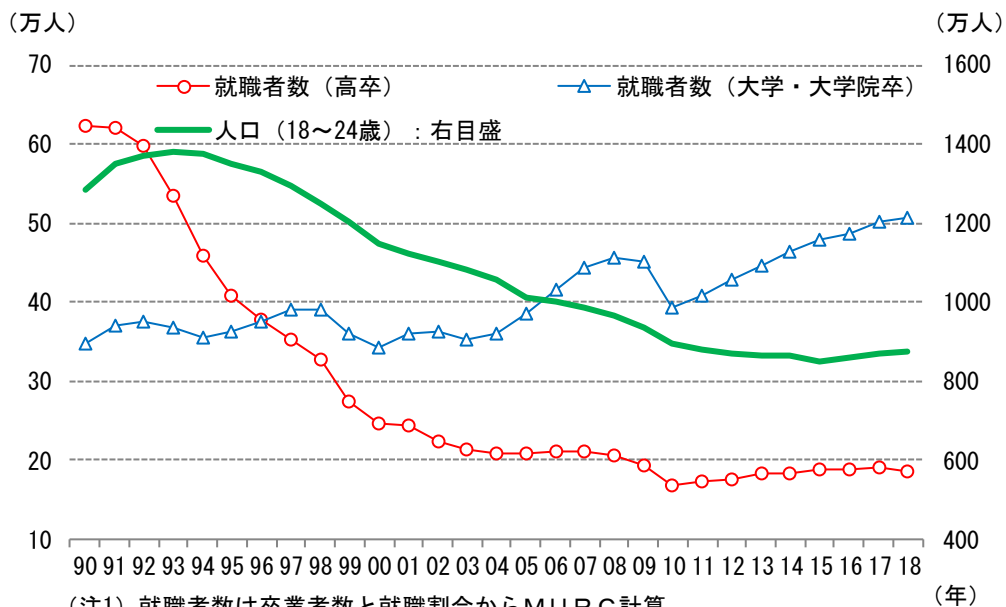


(注1) 内定率は大卒は2月1日時点、高卒は1月末時点。

(注2) 完全失業率は20～24歳の値。1年先行(2019年であれば2018年の値)。

(出所) 厚生労働省・文部科学省「大学卒業者等予定者の内定状況調査」、厚生労働省「高校・中卒新卒者の就職内定状況」、総務省「労働力調査」

参考図表 4 新入社員世代の人口と就職者数

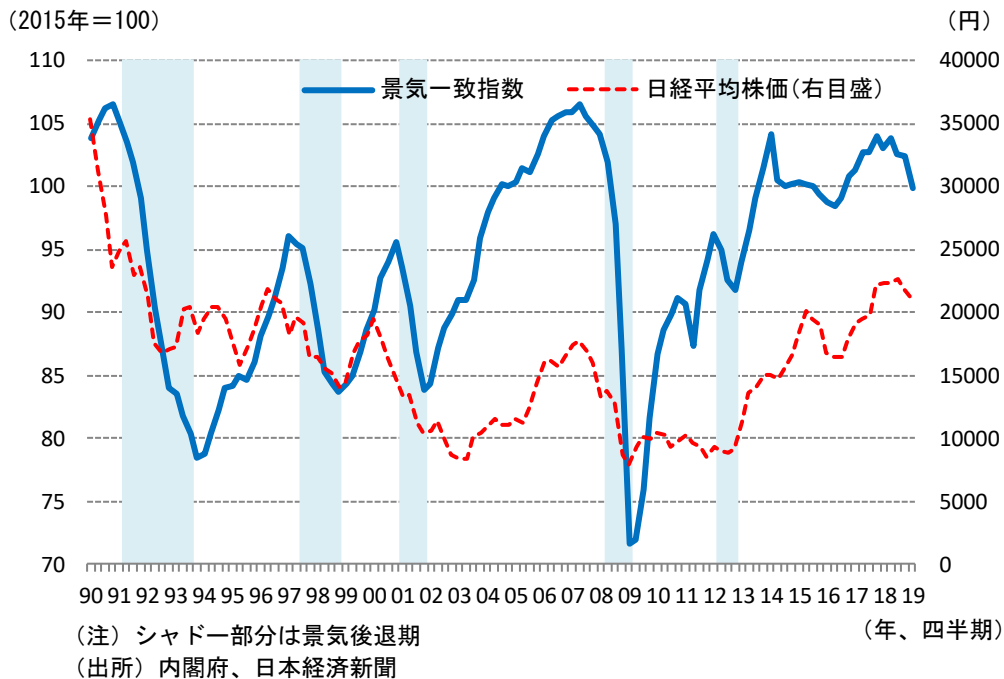


(注1) 就職者数は卒業者数と就職割合からMURC計算

(注2) 就職者数は各年卒。人口は各年10月1日現在。

(出所) 文部科学省「文部科学統計要覧」、「学校基本調査」、総務省「人口推計」

参考図表 5 国内景気の動向と日経平均株価



ー ご利用に際して ー

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。